

**浜松市生涯学習に関する
意識活動実態調査
報告書**

2024 年 12 月

浜 松 市
HAMAMATSU CITY

目 次

I. 調査の概要.....	2
II. アンケート調査結果	5
問1 性別、年齢、居住地、職業、家族構成.....	6
問2 どのような生涯学習を行ったか.....	9
問2-1 学習や活動を行うきっかけ.....	11
問2-2 どのような場所で学習したか.....	13
問2-3 どのような理由や目的で学習したか.....	15
問2-4 生涯学習活動を通じて得たもの.....	17
問2-5 生涯学習活動で得たことをどのように生かしているか.....	19
問2-6 生涯学習に関する情報をどこで得ているか.....	21
問3 生涯学習を行う際、支障になること.....	23
問4 今後、学んでみたい生涯学習の分野.....	25
問5 どのような場所や形態が生涯学習を行いやすいか.....	27
問6 日常生活のなかで特に関心のある社会課題.....	29
問7 生涯学習に関する情報を得やすい媒体.....	31
問8 どのような形態のオンライン学習を行ったことがあるか.....	33
問9 オンライン学習に対する希望.....	35
問9-1 「希望するができない」理由.....	37
問9-2 「希望しない」理由.....	39
問10 学び直しについて、どのような分野に興味があるか.....	41
問11 学び直しを支援するために最も効果的と思われること.....	43
問12 生涯学習の機会を拡大するために市が最も力を入れるべきこと.....	45
問13 今後、地域社会においてどのような活動に参加してみたいか.....	47
問14 上記の地域活動に参加しやすくするために最も必要なこと.....	49
III. 生涯学習に関する自由意見.....	51
IV. 今回の調査から	65
【資料】調査票.....	69

I . 調査の概要

1 目的

浜松市では「浜松市生涯学習推進大綱」に基づき、協働センターやふれあいセンターなどでの各種講座やセミナー等の開催など、皆様の生涯学習活動を支援する施策を進めています。

この調査は、社会の状況が大きく変化するなか、市民の皆様の生涯学習活動に対するお考えや活動状況を伺うことで、今後、より効果的な取り組みを進めることを目的に実施するものです。

2 調査対象

調査対象：浜松市内在住の18歳以上の市民

調査対象数：2,000人

抽出法：住民基本台帳より無作為抽出

3 回答方法

専用WEBフォーム、郵送

4 調査期間

2024年6月14日（金）～2024年7月15日（月・祝）

※郵送時は2024年7月23日着分まで

5 配布・回収結果

配布数	不達	実配布	回収数			回収率
				郵送回収	WEB フォーム	
2,000	9	1,991	604	426	178	30.3%

6 この報告書の見方

- ・基本調査（問1）の比率は小数点第2位を四捨五入、詳細調査（問2以降）の比率は小数点第1位を四捨五入しており、すべての比率合計が100%にならないことがあります。
- ・性別（未回答・その他）の回答、男女別の構成比には含まれません。
- ・図表の選択肢の表記は一部簡略化しています。
- ・この調査は、浜松市の住民基本台帳に記載されている市民（母集団）から無作為に抽出した標本調査であり、回答結果には統計上の誤差（標本誤差）が伴います。回答結果を集計した値に含まれる標本誤差（信頼度95%）は次により求められます。

$$(\text{標本誤差}) = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N: 母集団の数 (調査対象者数)
n: 標本数 (回答数)
p: 回答比率

誤差の範囲は、以下標本誤差早見表を参照ください。

標本誤差早見表 (信頼度 95%)

回答比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

注記)

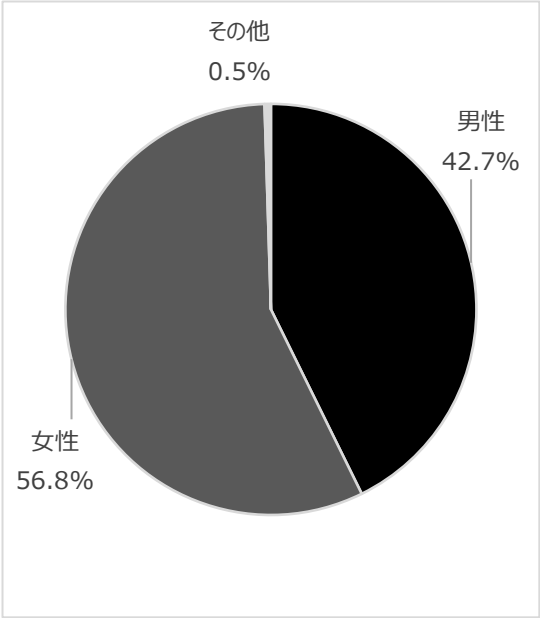
例えば、回答者数が 600 である質問におけるある選択肢の回答の比率が 30% の場合、その回答の比率の誤差の範囲は ±3.74% (26.26% ~ 33.74%) の範囲にあることが 95% の信頼度でいえる。

Ⅱ．アンケート調査結果

問1 あなたの性別、年齢、居住地、職業、家族構成をお答えください。

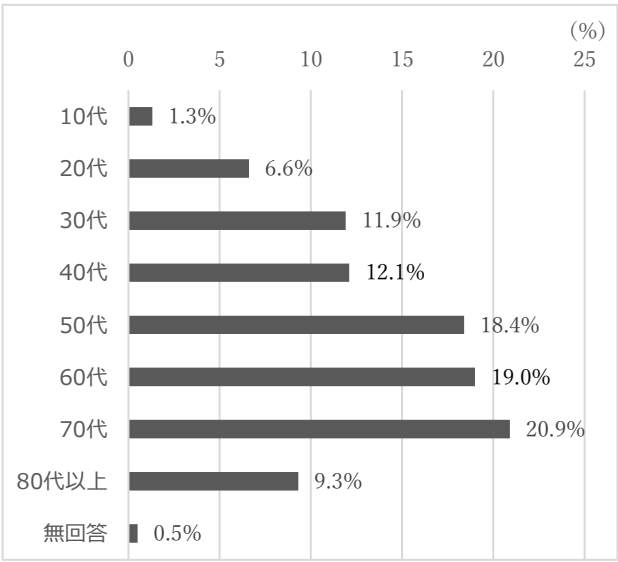
性別

	合計
全体	604 (100%)
男性	258 (42.7%)
女性	343 (56.8%)
その他	3 (0.5%)

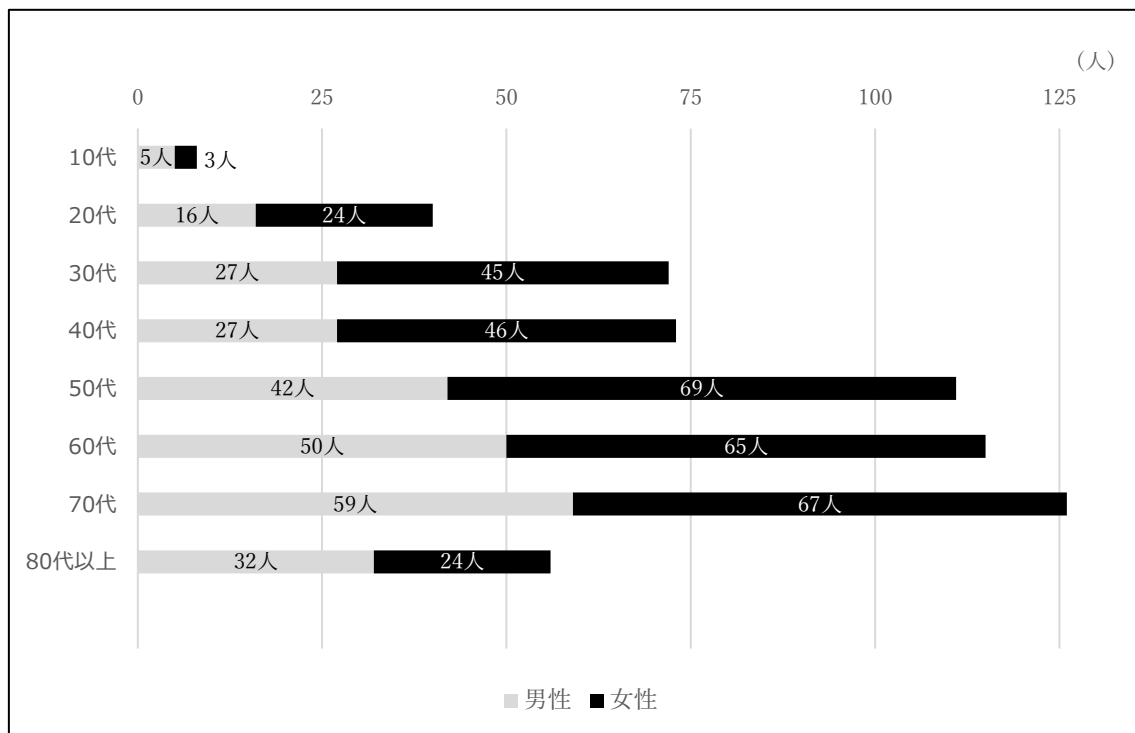


年齢

	合計	男性	女性
全体	604 (100%)	258	343
10代	8 (1.3%)	5	3
20代	40 (6.6%)	16	24
30代	72 (11.9%)	27	45
40代	73 (12.1%)	27	46
50代	111 (18.4%)	42	69
60代	115 (19.0%)	50	65
70代	126 (20.9%)	59	67
80代以上	56 (9.3%)	32	24
無回答	3 (0.5%)		

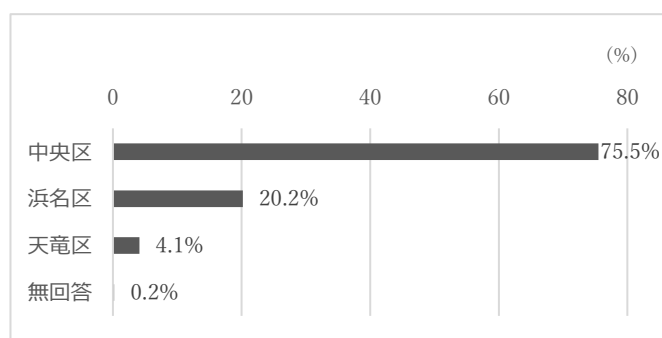


性別/年代別回答数



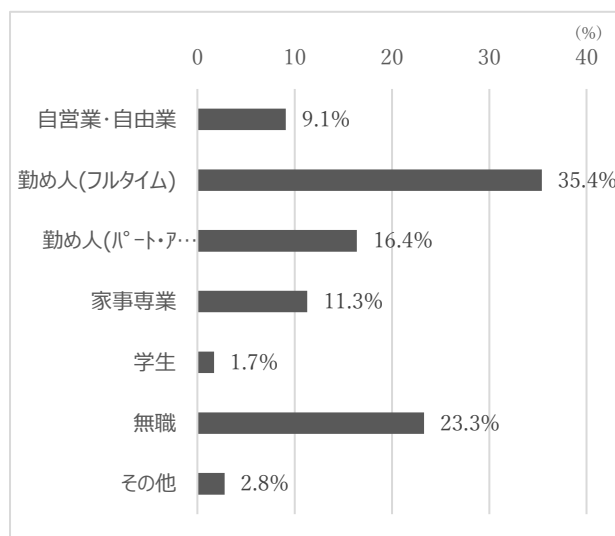
居住地

	合計
全体	604 (100%)
中央区	456 (75.5%)
浜名区	122 (20.2%)
天竜区	25 (4.1%)
無回答	1 (0.2%)



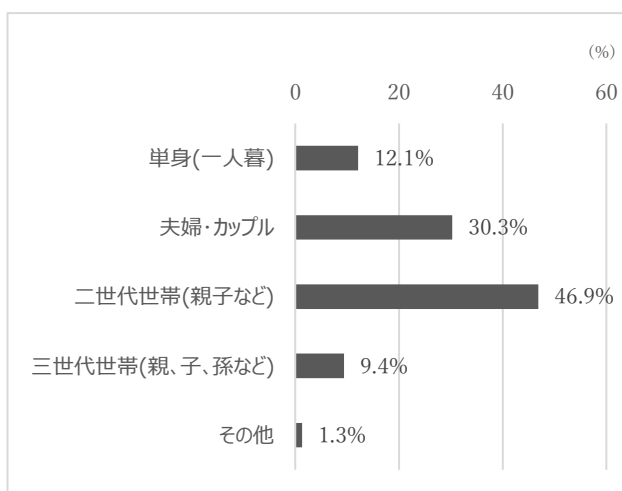
職業

	合計
全体	604 (100%)
自営業・自由業	55 (9.1%)
勤め人 (フルタイム)	214 (35.4%)
勤め人 (パート・アルバイト)	99 (16.4%)
家事専業	68 (11.3%)
学生	10 (1.7%)
無職	141 (23.3%)
その他	17 (2.8%)



家族構成

	合計
全体	604 (100%)
単身 (一人暮らし)	73 (12.1%)
夫婦 カップル	183 (30.3%)
二世帯世帯 (親子など)	283 (46.9%)
三世帯世帯 (親、子、孫など)	57 (9.4%)
その他	8 (1.3%)



今回のアンケートの回答はやや女性の回答率が高かった。回答者の50%以上が50代以上となっており、WEBよりも郵送の割合が高くなっている。

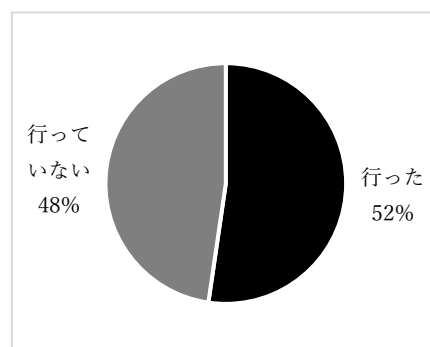
居住地は人口比率の関係から、中央区の回答者が多く75.5%という結果となった。

回答者の職業は、フルタイム勤務が最も多く35.4%となっており、無職が23.3%と続いている。

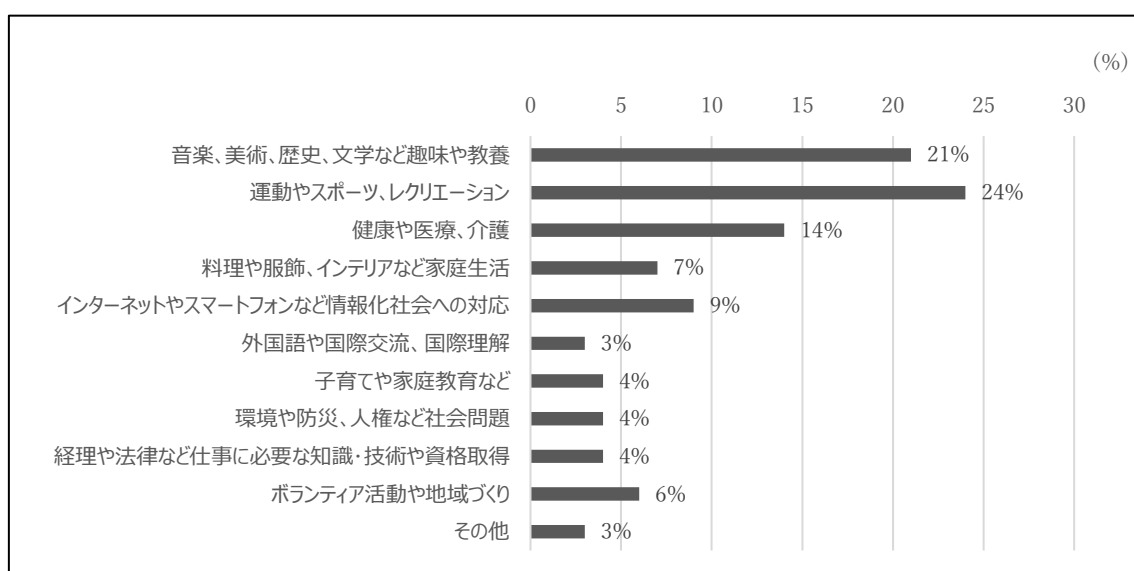
家族構成は二世帯世帯の割合が46.9%と約半数を占め、続いて夫婦・カップルが30.3%となっている。

問2 この1年くらいの間で、どのような生涯学習を行いましたか(3 つ以内で)

	合計	行った	行っていない
回答数	604	316	288
成比	100%	52%	48%



学習内容



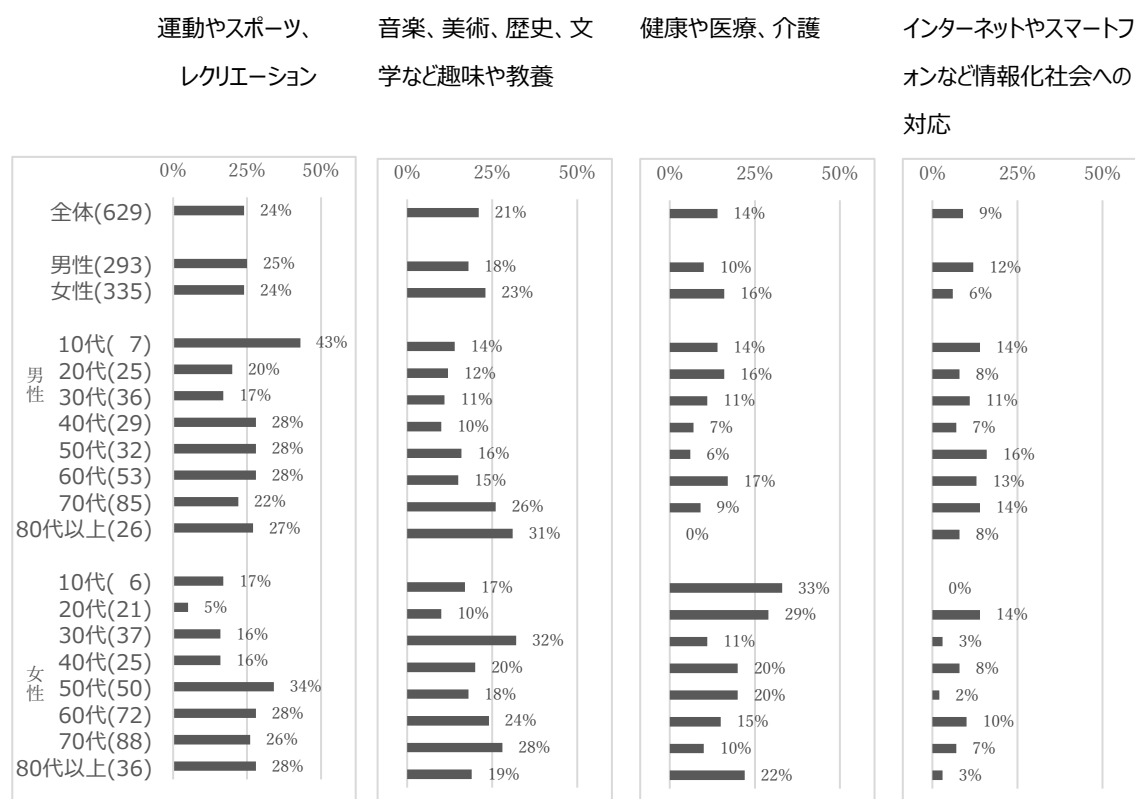
この1年くらいの間で、どのような生涯学習を行ったかを尋ねたところ、「運動やスポーツ、レクリエーション」が最も多く24%。続いて「音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養」が21%、「健康や医療、介護」が14%、「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」が9%となっている。

運動やスポーツ、健康や医療に関する回答が4割近くを占めていることから、日常的に自身の健康に留意されている方が多い状況が推察される。

以下、「料理や服飾、インテリアなど家庭生活」が7%、「ボランティア活動や地域づくり」が6%と続いており、身近な活動対象に目が向いている様子がうかがわれる。

また、「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」が4番目に挙げられており、この分野については、自由意見にも多くの声が寄せられていることから、根強いニーズがあるものと思われる。

性別/性別×年齢別

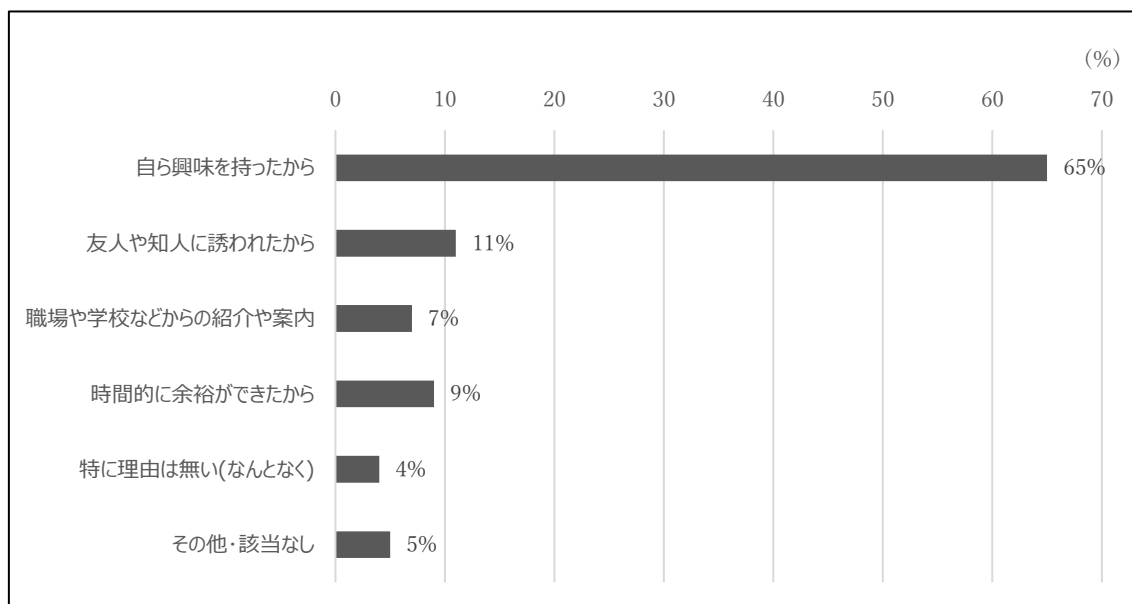


全般的に「運動やスポーツ、レクリエーション」の割合が全世代を通して多くなっているが、女性については「健康や医療、介護」が16%と高く、男性については「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」が12%と女性の倍となっているところが特徴的と思われる。

性別×年齢別でみると、「音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養」については、30代の女性が32%と高く、70代80代以上の男性がそれぞれ26%、31%と高くなっている。

一方、「健康や医療、介護」については、女性の支持率が非常に高く、10代20代女性でそれぞれ33%、29%となっている。「運動やスポーツ、レクリエーション」は、10代男性で43%と高い結果となった。「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」は、50代男性で16%、20代女性で14%と高くなっている。

問2-1 その学習や活動を行うきっかけは何でしたか。

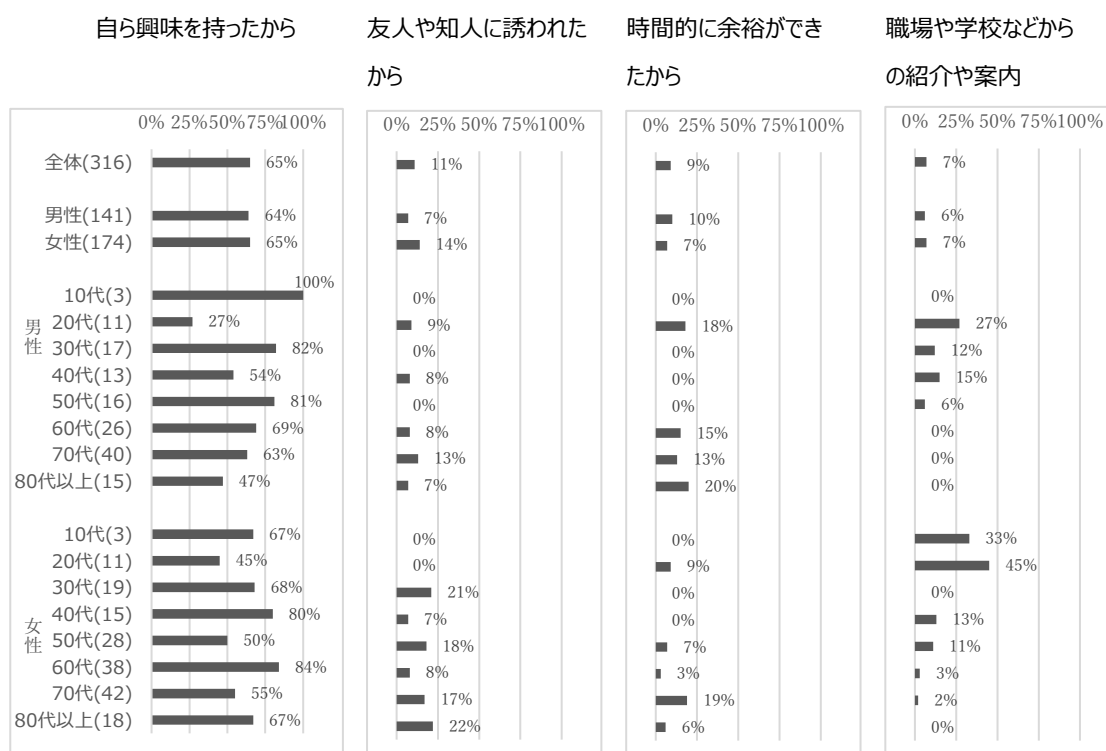


学習や活動を行うきっかけは何かと尋ねたところ、「自ら興味を持ったから」が圧倒的に多く 65%の回答であった。以下、「友人や知人に誘われたから」が 11%、「時間に余裕ができたから」が 9%、「職場や学校などからの紹介や案内」が 7%となっており、その他の項目にはそれほど大きな差は見られなかった。

学習や活動を始めるに至ったきっかけは、それぞれの理由や事情があるものと推察されるが、回答者の過半が「自ら興味を持ったから」を選択されたことは、自主的に学習しようという意欲のある方が多いことの証左となるものである。

生涯学習は、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本として行うものであり、市民の学習要求に応えていくことが求められる。

性別/性別×年齢別



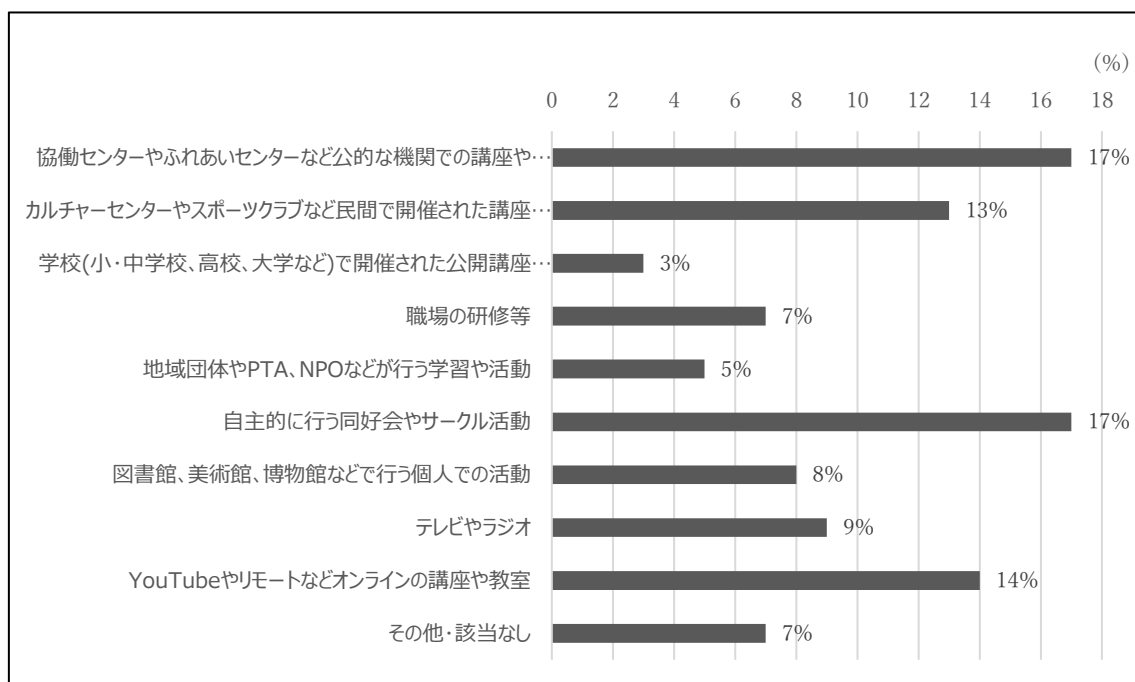
「自ら興味を持ったから」とする回答の比率はについて、それぞれ 65%ほどであり男女間で差は見られない。

性別×年齢別で見ると、「友人や知人に誘われたから」は、女性の回答率が比較的高く、80代で22%、30代で21%となっている。

また、「時間的に余裕ができたから」は、60代以降の男性が比較的高くなっている。

「職場や学校などからの紹介や案内」は、10代20代の若者層が多く、特に女性においてそれぞれ33%、45%と高い回答率となっている。

問2-2 どのような場所で学習しましたか(3 つ以内で)

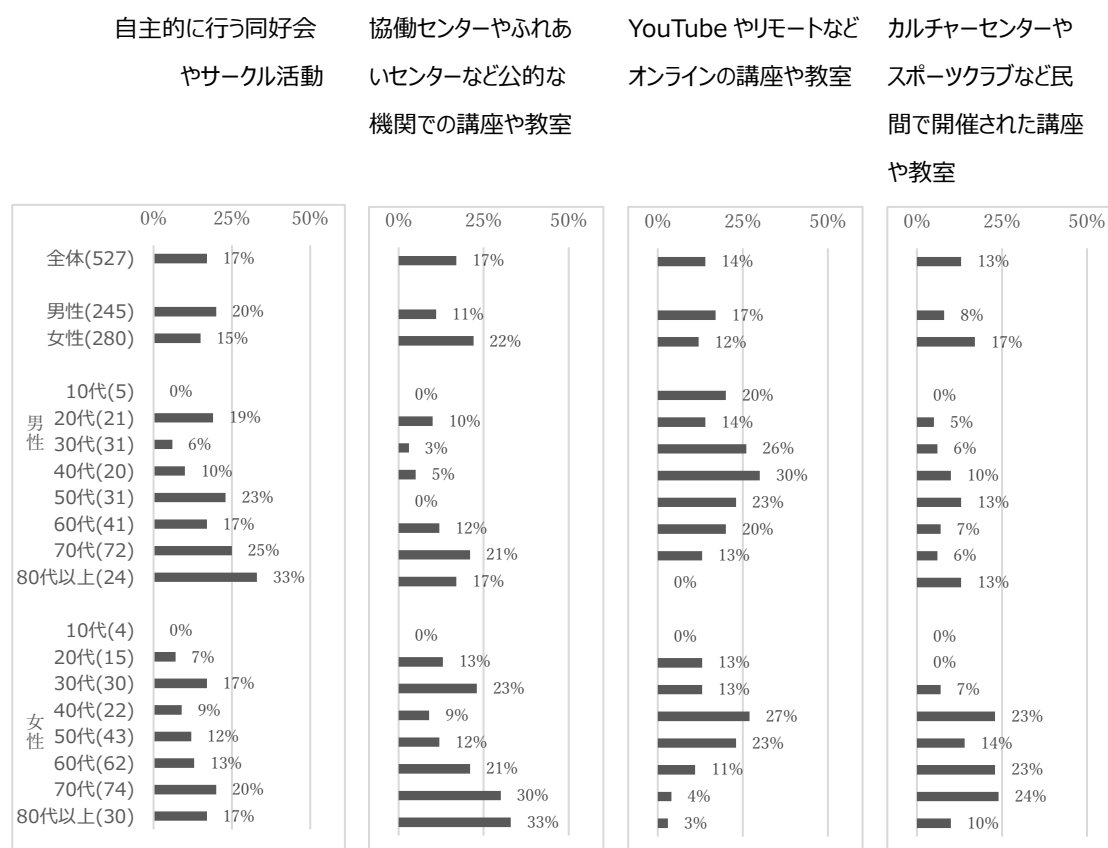


どのような場所で学習しましたかと尋ねたところ、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」と「自主的に行う同好会やサークル活動」が 17% と同率で、高い数字となった。コロナで外出自粛が続いていたためか、リアルでの学習を選ぶ傾向が高かった。

続いて、「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」が 14% となっており、見方によれば、今後、オンライン学習は進めていく余地があるともいえる。

以下、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催された講座や教室」が 13%、「テレビやラジオ」が 9%、「図書館、美術館、博物館などで行う個人での活動」が 8% と続いている。

性別/性別×年齢別

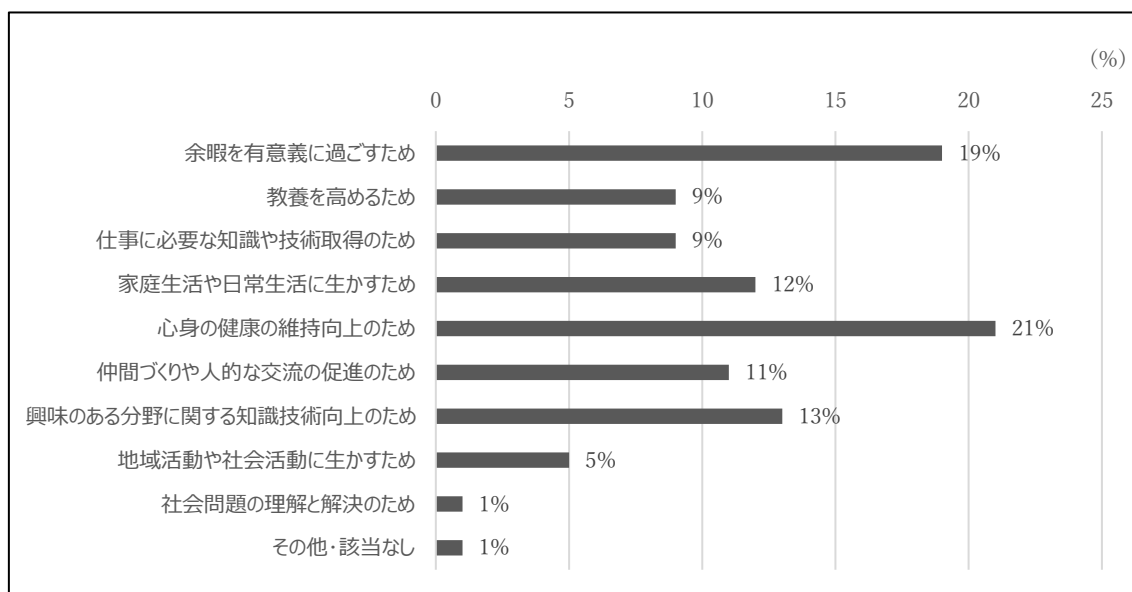


「自主的に行う同好会やサークル活動」、「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」については、男性の回答が多く、それぞれ 20%、17%となっている。一方、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催された講座や教室」については女性の回答が多く、それぞれ 22%、17%となっている。

性別×年齢別で見ると、「自主的に行う同好会やサークル活動」が、80代男性で 33%、70代男性で 25%、と高い結果となった。「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」は、女性の支持率が高く、特に 80代女性で 33%、70代女性で 30%となっている。

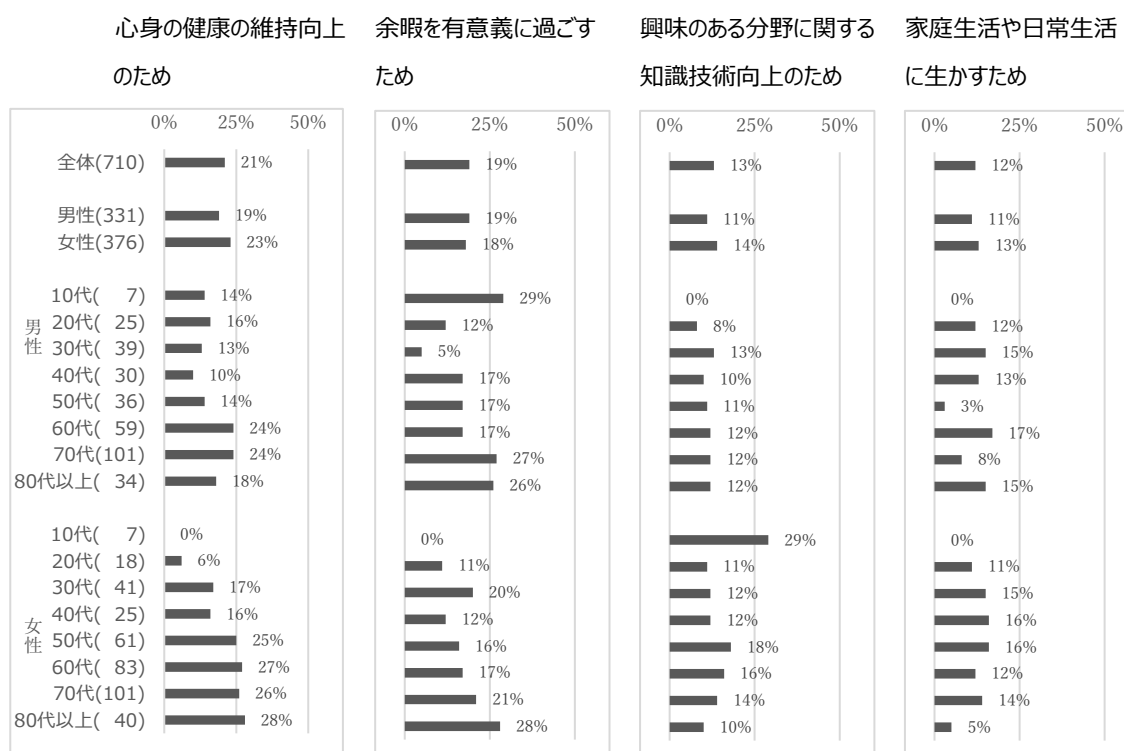
「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」は、男女共に 40代の割合が高く男性で 30%、女性で 27%となっている。「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催された講座や教室」は、女性の支持率が高く、70代女性が最も多く 24%となっている。

問2-3 どのような理由や目的で学習をしましたか(3 つ以内で)



どのような理由や目的で学習をしましたかと尋ねたところ、「心身の健康の維持向上のため」が最も多く 21%。続いて「余暇を有意義に過ごすため」が 19%、「興味のある分野に関する知識技術向上のため」が 13%、「家庭生活や日常生活に生かすため」が 12%と続いている。以下、「仲間づくりや人的な交流の促進のため」が 11%、「教養を高めるため」と「仕事に必要な知識や技術取得のため」が 9%となっている。

性別/性別×年齢別



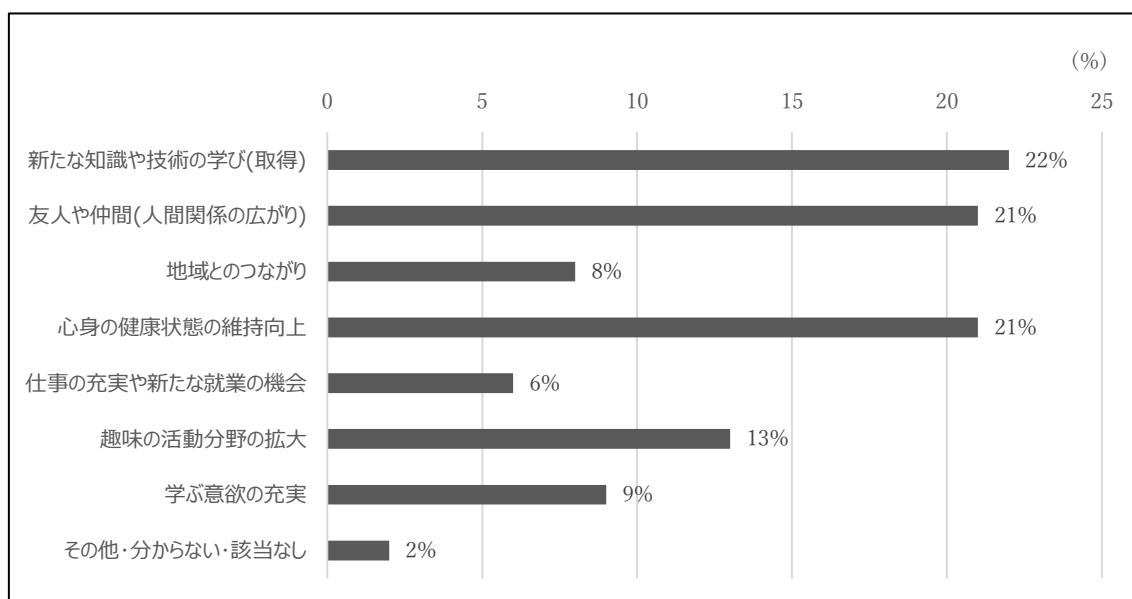
男性女性の比較では大きな差は見られない。

性別×年齢別で見ると、「心身の健康の維持向上のため」が、50歳以上の女性に多く、特に80代以上の女性で28%、60代女性で27%となっている。

また、「余暇を有意義に過ごすため」は、男性女性とも70歳以上で多くなっている。標本数は少ないが、10代男性も29%と高い。

「興味のある分野に関する知識技術向上のため」は、10代女性で29%と最も高く、「家庭生活や日常生活に生かすため」は、30～50代の女性層に安定して高く、男性では60代が17%と最も高くなっている。

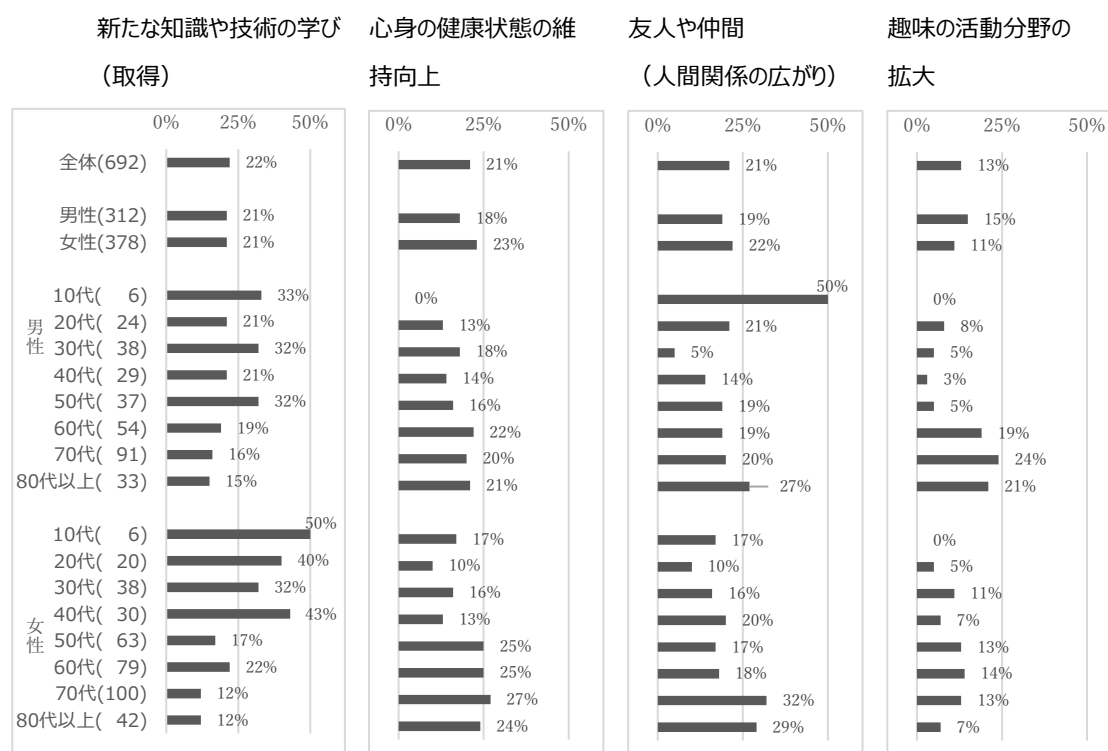
問2-4 生涯学習活動を通じて得たものはどのようなものですか(3 つ以内で)



生涯学習活動を通じて得たものはどのようなものですかと尋ねたところ、「新たな知識や技術の学び(取得)」が最も多く 22%。続いて「友人や仲間(人間関係の広がり)」と「心身の健康状態の維持向上」が 21%、「趣味の活動分野の拡大」が 13%と続いている。

以下「学ぶ意欲の充実」が 9%、「地域とのつながり」が 8%、「仕事の充実や新たな就業の機会」が 6%となっている。

性別/性別×年齢別



各設問とも、男性と女性の比較で大きな差は見られない。

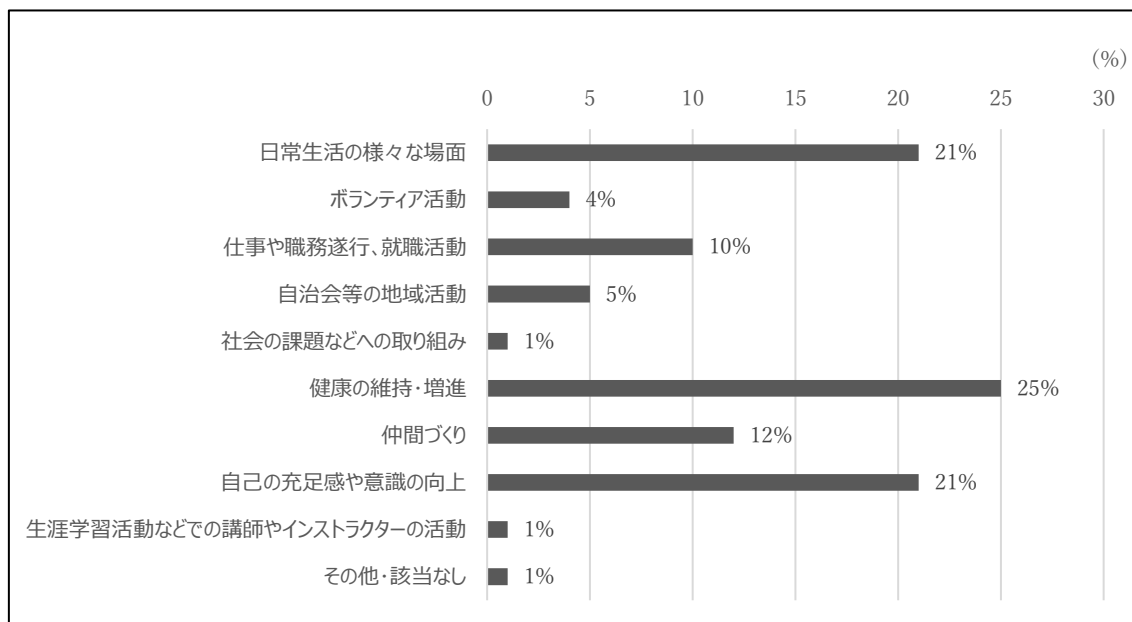
性別×年齢別で見ると、「心身の健康状態の維持向上」は、男性では60代以上、女性では50代以上の層で多くなっている。特に、70代女性が27%と最も高く、続いて50代60代女性が25%となっている。

また、「新たな知識や技術の学び(取得)」との回答は、若い層で多くっており、特に、10代女性で50%と最も高く、40代女性でも43%となっている。

「友人や仲間(人間関係の広がり)」は、いずれの年齢層でも一定の回答を得ているが、特に70代以上の女性が多くなっている。また、10代男性で50%と最も多くなっているのも特徴的と思われる。

「趣味の活動分野の拡大」は、60代以上の男性に多く、特に70代男性は24%と最も多い。

問2-5 生涯学習活動で得たことをどのように生かしていますか(3 つ以内で)

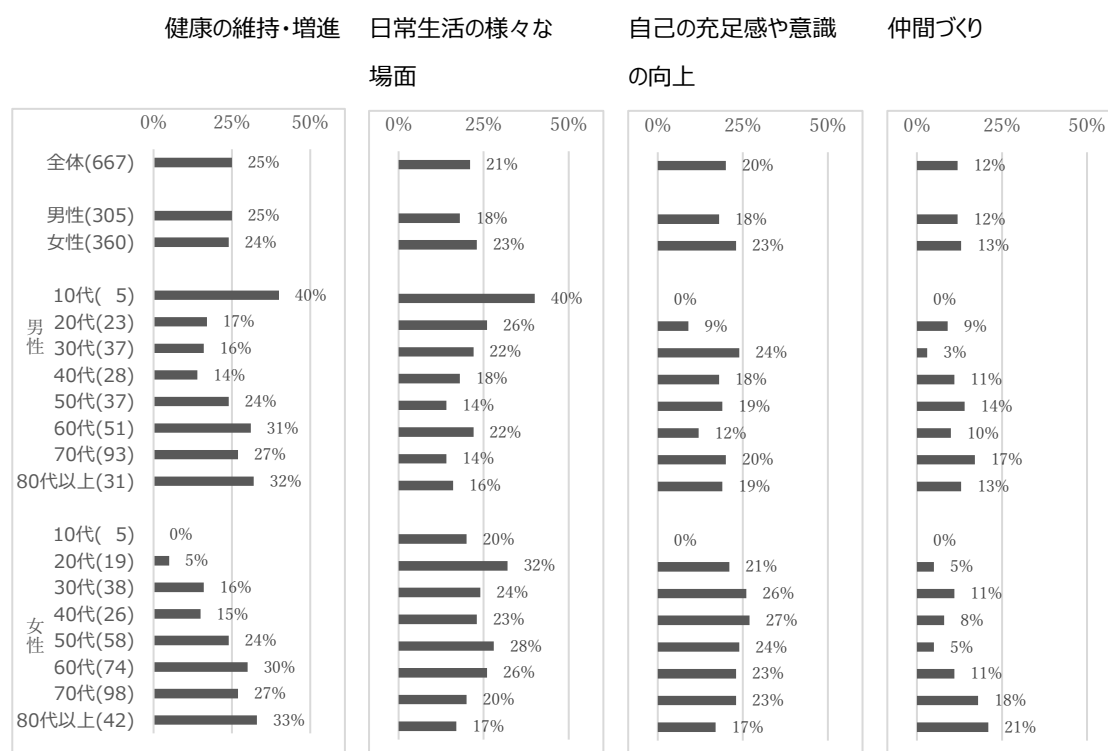


生涯学習活動で得たことをどのように生かしていますかと尋ねたところ、「健康の維持・増進」が最も多く 25% となっており、健康の維持・増進について学んだことを、実際に生かしている方が多いことがわかる。

続いて「日常生活の様々な場面」と「自己の充足感や意識の向上」がそれぞれ 21% となっており、学習することによって実生活を充実させている様子がうかがわれる。以下、「仲間づくり」が 12%、「仕事や職務遂行、就職活動」が 10%、「自治会等の地域活動」が 5%、「ボランティア活動」が 4% となっている。

前問の、理由や目的の設問で、「心身の健康の維持向上のため」とする回答が最も多かったことと同様の結果となっている。

性別/性別×年齢別



それぞれの設問において、男性女性の比較で大きな差は見られない。

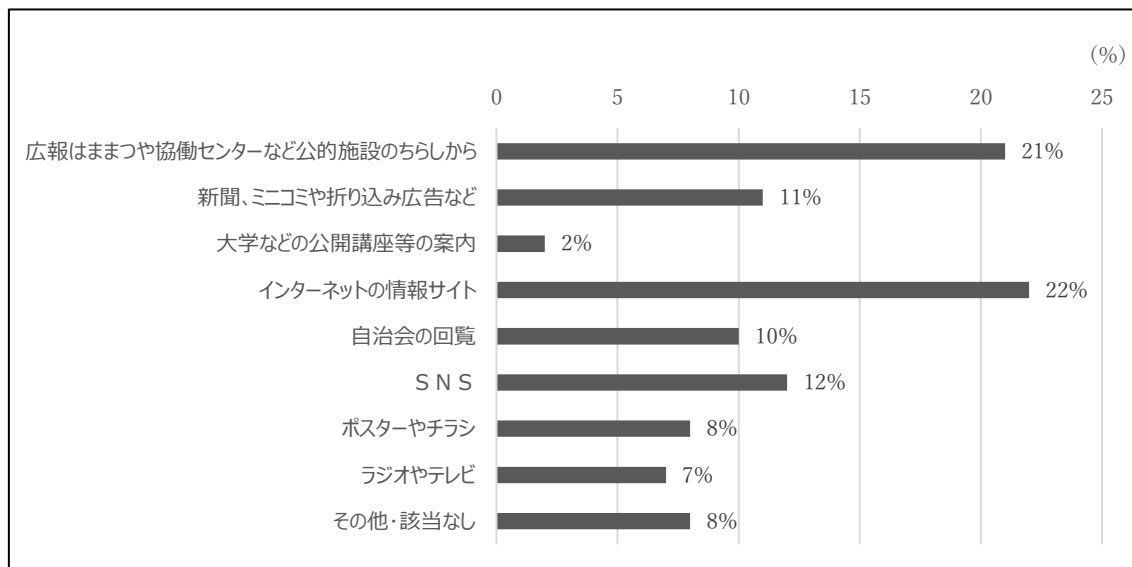
性別×年齢別で見ると、「健康の維持・増進」が、男性女性とも60代以上の高齢層に多く、10代男性も40%と高い。

「日常生活の様々な場面」については、20代から60代の女性が多く、20代女性で32%となっている。男性女性とも高齢層は少なめであるが、10代男性は40%と高い。

「自己の充足感や意識の向上」は、特に40代30代の女性に多く、それぞれ27%、26%となっている。この回答は、学習活動のきっかけについての質問において、「自ら興味を持ったから」との回答が多い事とも繋がっているものと推察される。

「仲間づくり」との回答が、男性女性とも70代以上で多くなっており、特に女性では80代以上が21%と最も高く、70代で18%となっている。

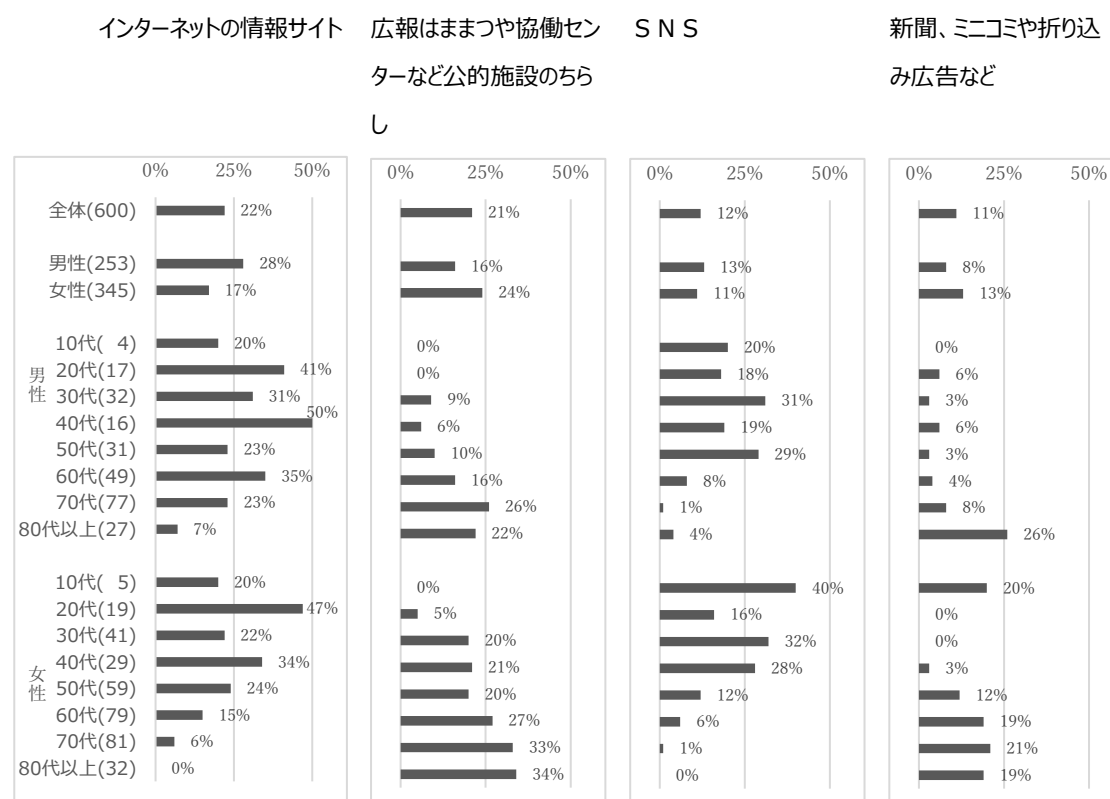
問2-6 生涯学習に関する情報をどこで得ていますか(3 つ以内で)



生涯学習に関する情報をどこで得ていますかと尋ねたところ、「インターネットの情報サイト」が最も多く 22%。続いて「広報はままつや協働センターなど公的施設のちらしから」が 21%、「S N S」が 12%、「新聞、ミニコミや折り込み広告など」が 11% と続いている。以下、「自治会の回覧」が 10%、「ポスターやチラシ」が 8% となっている。「その他・該当なし」も 8% となっている。

情報を得る手段としては、インターネットや SNS など電子媒体と広報紙や新聞など紙媒体への志向がそれぞれあることから、多様な媒体による情報発信が求められている。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較では、「インターネットの情報サイト」が男性で 28%と高く、「広報はままつや協働センターなど公的施設のちらしから」は女性が 24%と高くなっている。

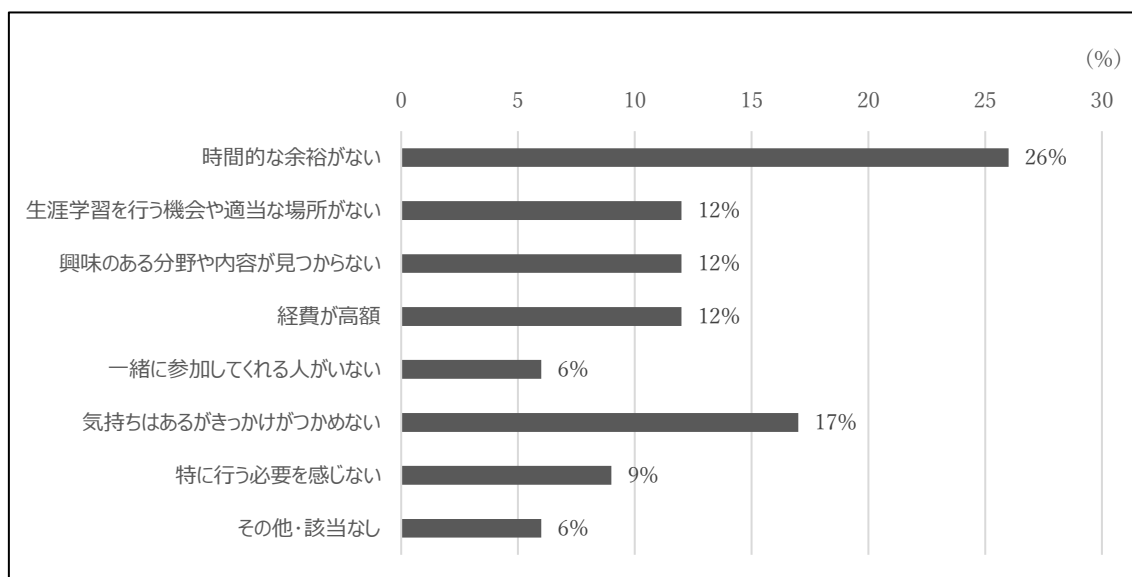
性別×年齢別で見ると、「インターネットの情報サイト」が、40 代男性で 50%と最も高く、20 代女性も 47%となっている。女性については、年齢層が上がるにつれて減少し 80 代以上では 0%となっている。一方で、男性についても、年齢層が上がるとともに減少するものの 80 代以上でも 7%となっている。

「広報はままつや協働センターなど公的施設のちらしから」は 60 代以上の女性の支持率が高く、80 代で 34%、70 代で 33%、60 代で 27%となっている。男性においても、70 代で 26%、80 代以上で 22%となっている。

「SNS」は、10 代から 40 代の女性が多く、10 代で 40%、30 代で 32%となっているが、高齢層で少なく、70 代で 1%、80 代以上で 0%である。

「新聞、ミニコミや折り込み広告など」は、概して男性の支持が低い、80 代以上だけが 26%と高くなっている。女性においても 60 代以上に多く、60 代が 19%、70 代が 21%、80 代以上が 19%となっている。

問3 生涯学習を行う際、どのようなことが支障になりますか(3 つ以内で)



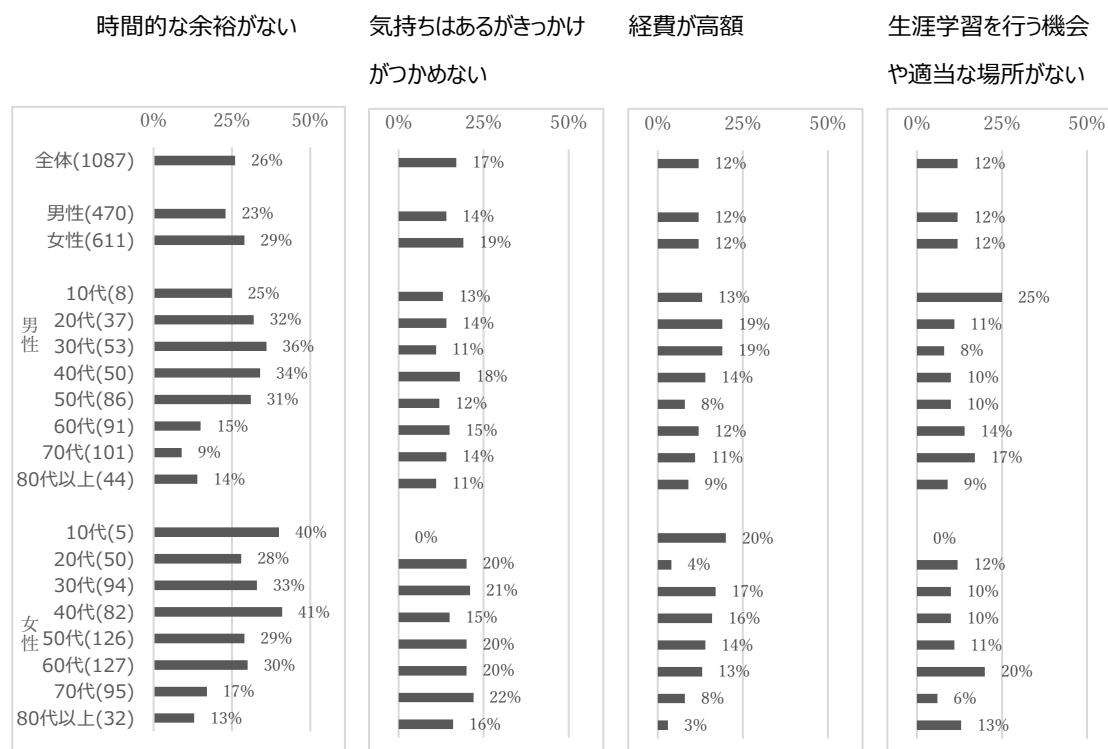
生涯学習を行う際、どのようなことが支障になりますかと尋ねたところ、「時間的な余裕がない」が最も多く 26%。続いて「気持ちはあるがきっかけがつかめない」が 17%、「生涯学習を行う機会や適当な場所がない」、「興味のある分野や内容が見つからない」、「経費が高額」が同率で 12%となっている。

以下、「特に行う必要を感じない」が 9%、「一緒に参加してくれる人がいない」が 6%と続いている。

これらの回答から、学ぶことに意欲を有している方は 8 割を超えているものと、読み取ることもできる。

自由回答においても「時間がない/余裕がない」「気持ちはあるができていない」との意見が多数寄せられており、学習活動への参加促進のための方策が求められる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られないが、女性の回答において「時間的な余裕がない」と「気持ちはあるがきっかけがつかめない」が、それぞれ6%、5%と男性を上回っている。

性別×年齢別で見ると、「時間的な余裕がない」が40代女性で41%と最も高く、10代女性でも40%となっている。こうしたなか、自由意見には、仕事や家事に忙しく過ごしているが、時間があれば学習したいとの意見も多数寄せられていた。

「気持ちはあるがきっかけがつかめない」は、70代女性で22%と最も高くなっており、続いて、30代女性が21%となっている。

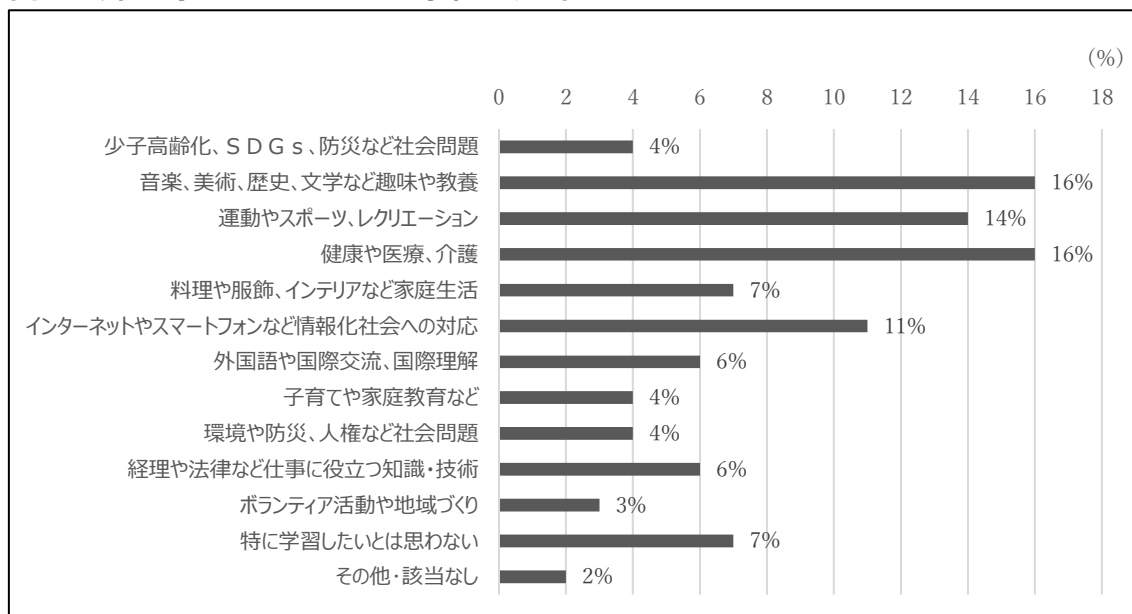
「経費が高額」は、10代女性で20%と最も高く、男性も20代30代がそれぞれ19%と高くなっている。

「生涯学習を行う機会や適当な場所がない」は、10代男性で25%と最も高く、60代女性で20%と高い結果となっている。

「時間的な余裕がない」については、高齢層で少なくなっているが、「気持ちはあるがきっかけがつかめない」については、全年齢層を通して平均的に多いように見受けられる。

学習活動への参加のきっかけとともに、場所や機会の提供促進が求められる。

問4 今後、学んでみたい生涯学習の分野(3つ以内で)



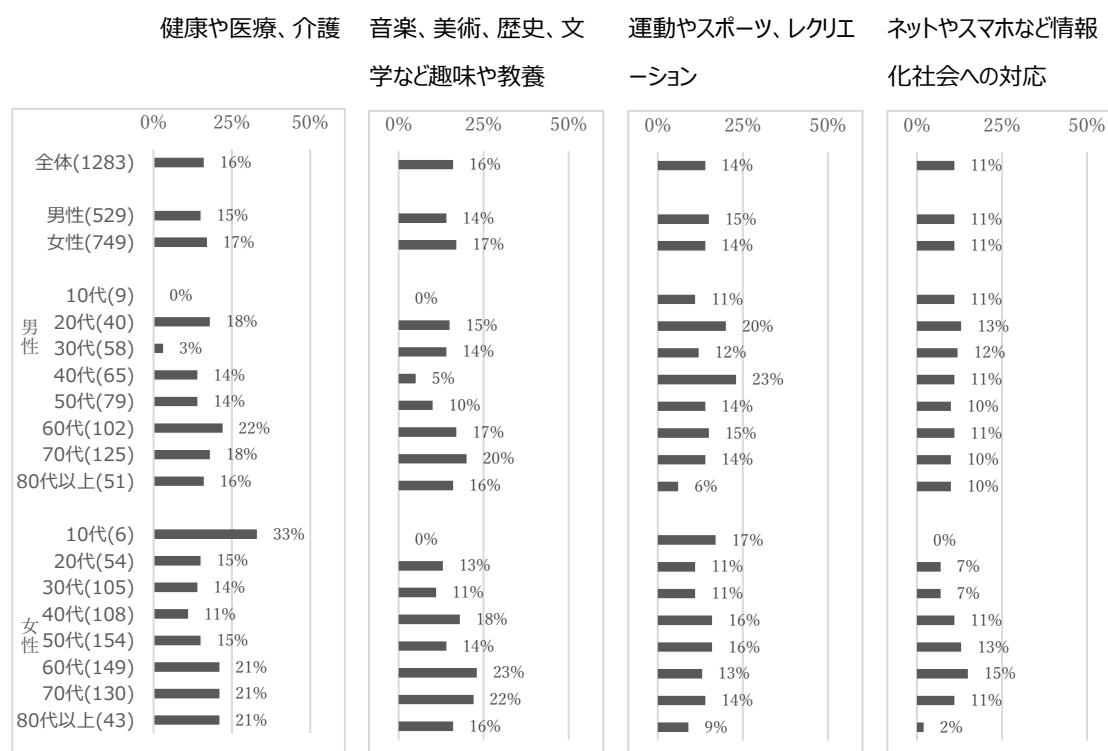
今後、学んでみたい生涯学習の分野はと尋ねたところ、「音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養」と「健康や医療、介護」が、同率で16%と最も多かった。

続いて、「運動やスポーツ、レクリエーション」が14%、「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」が11%となっている。

以下、「料理や服飾、インテリアなど家庭生活」が7%、「外国語や国際交流、国際理解」及び「経理や法律など仕事に役立つ知識・技術」が6%と続いている。

「特に学習したいとは思わない」との回答が7%となっているが、これは見方を変えれば、9割以上の方が生涯学習活動に参加してみたい、という思いを持たれているものと解することもできることから、生涯学習活動に対する潜在的な需要は高いものと思われる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られない。

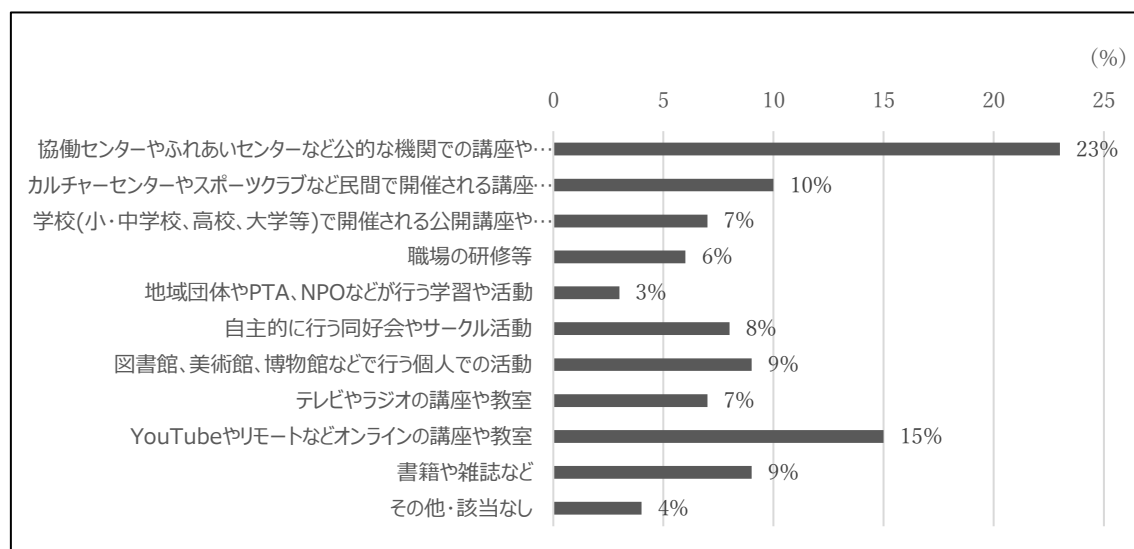
性別×年齢別で見ても、他の設問に比して回答の年代別のばらつきが少ない。特に、「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」に対する男性の回答は各年代 10～13%の間に収まっている。

「健康や医療、介護」が、60代以上の女性に安定的に支持されており、10代女性も33%と高い。「運動やスポーツ、レクリエーション」は、比較的男性の支持が多く、40代で23%と最も高く、20代男性で20%となっている。

「音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養」は、60代女性で23%と最も高く、70代女性で22%となっている。男性においても、20代30代及び60代以上で15%前後の支持を得ている。

「インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応」は、60代女性で15%と最も高く、50代女性も13%となっており、学習ニーズの根強さが推察される。

問5 どのような場所や形態が生涯学習を行いやすいですか(3 つ以内で)

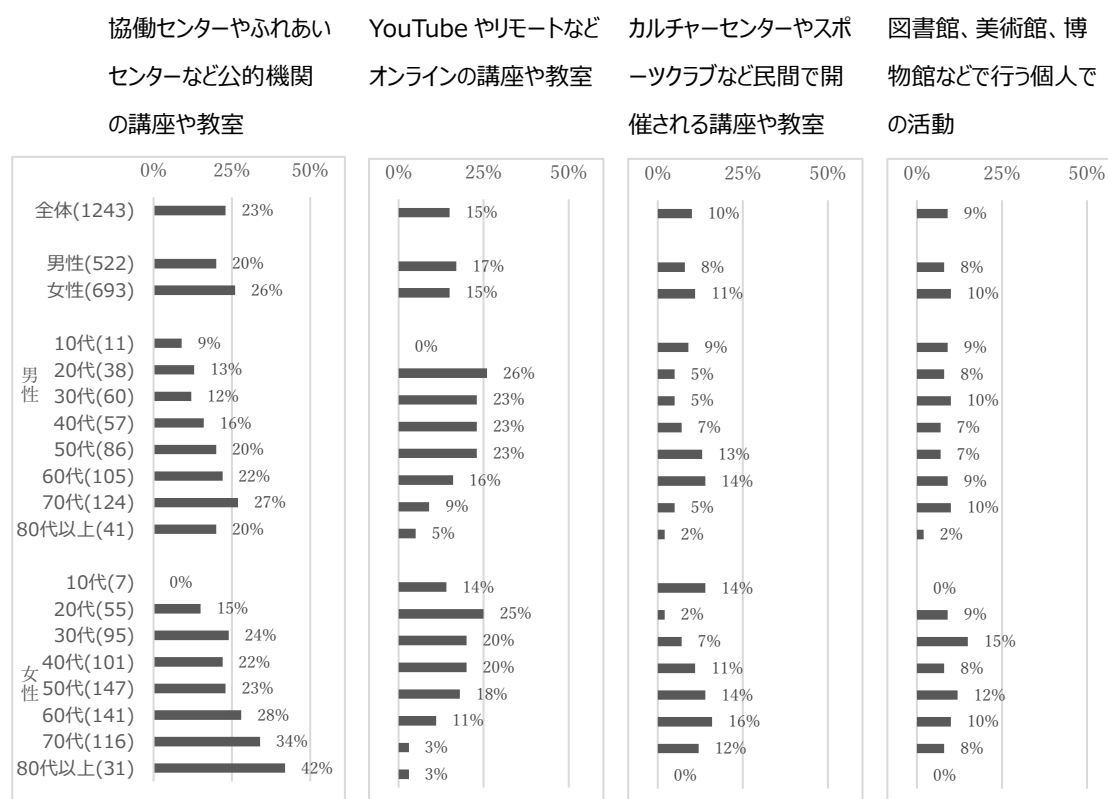


どのような場所や形態が生涯学習を行いやすいですかと尋ねたところ、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」が最も高く 23%。続いて「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」が 15%、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催される講座や教室」が 10%、「図書館、美術館、博物館などで行う個人での活動」、「書籍や雑誌など」が同率で 9%となっている。

以下、「自主的に行う同好会やサークル活動」が 8%、「学校で開催される公開講座や教室」と「テレビやラジオの講座や教室」が 7%と続いている。

直接会場に出向き、対面での学習を望む声が多い一方で、オンラインでの参加の希望者も一定数おり、生涯学習活動の実施形態へのニーズも多様化しつつあるように思われる。

性別/性別×年齢別



男性女性との比較では大きな差は見られないが、「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」以外で女性の比率が少しずつ高くなっている。

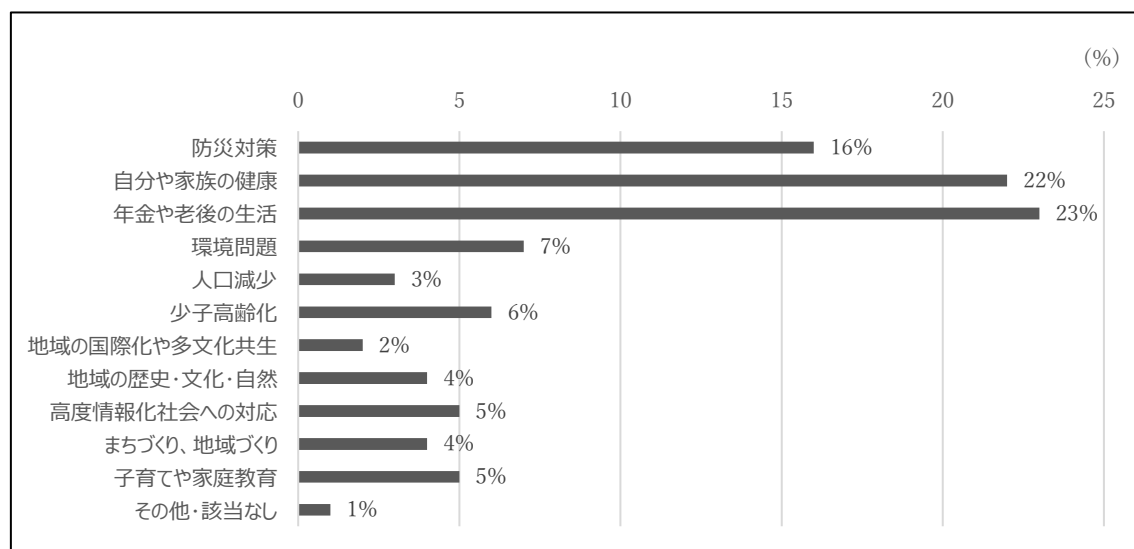
性別×年齢別で見ると、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」では60代以上の女性の支持が顕著で、80代以上が最も高く42%、70代で34%、60代で28%となっている。

「YouTube やリモートなどオンラインの講座や教室」は、それぞれ20代から50代までの支持が圧倒的であり、なかでも、20代男性が26%、20代女性が25%と男女共に20代が高くなっている。

「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催される講座や教室」は、それぞれ50代60代で高くなっている。「図書館、美術館、博物館などで行う個人での活動」は、それぞれ各年代で10%前後の支持となっており、30代女性で15%と最も高くなっている。

80代以上においては、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」以外の活動が極めて少なくなっており、移動手段等で身近な施設以外での活動が難しい様子がうかがわれる。

問6 日常生活のなかで特に関心のある社会課題は何ですか(3 つ以内で)

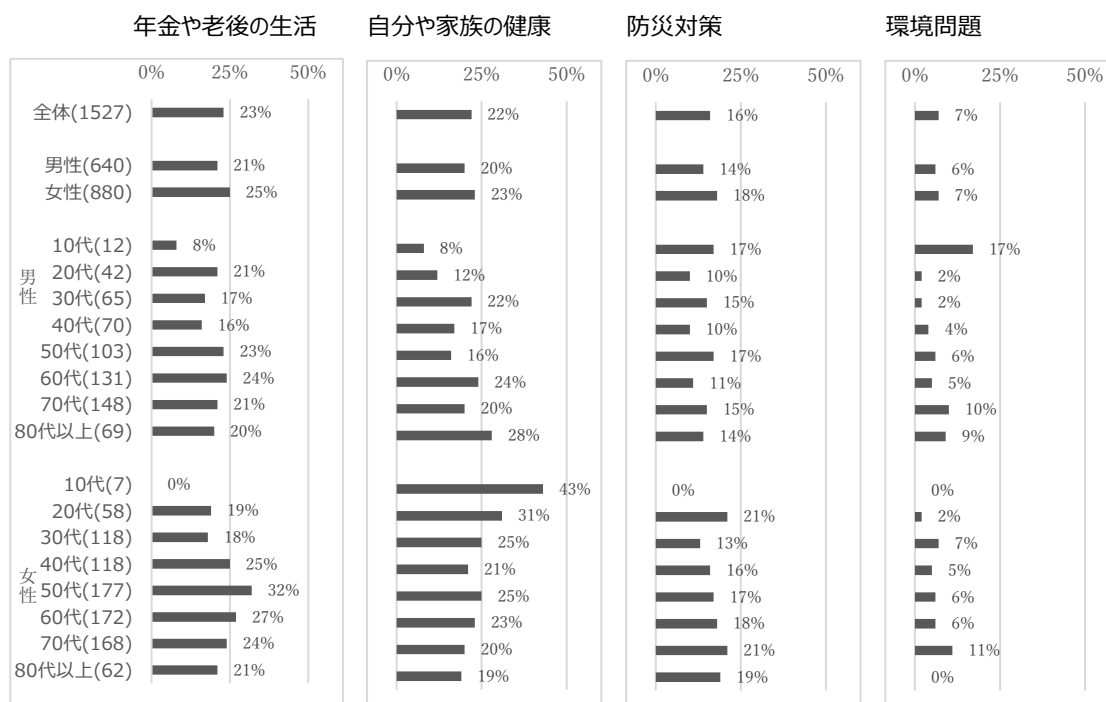


日常生活のなかで特に関心のある社会課題は何ですかと尋ねたところ、「年金や老後の生活」が最も多く 23%。続いて「自分や家族の健康」が 22%、「防災対策」が 16% という結果となった。

以下、「環境問題」7%。「少子高齢化」が 6%となっており、「高度情報化社会への対応」と「子育てや家庭教育」が 5%と続いている。

社会課題としては、より身近で、生活に直接つながっていることについて意識されているものと推察される。また、近年頻発している大規模災害に対する関心も高い。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較では大きな差は見られない。

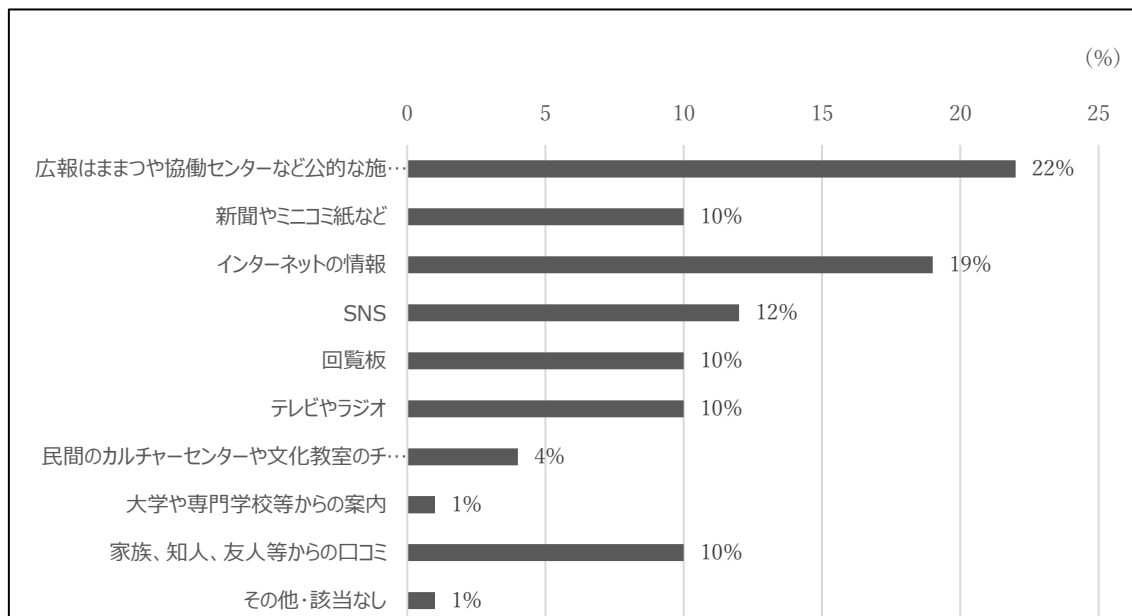
性別×年齢別で見ると、「年金や老後の生活」が、50代女性で32%と最も高く、次いで60代女性が27%で、50代60代で高くなっている。男性も同様の傾向であり、それぞれ70代80代以上では少しずつ低くなっている。また、20代男性で21%、女性で19%となっており、全世代的に社会課題と認識されている。さらに、現在、年金を受給している世代よりも、今後年金を受給する世代の関心が高くなっている様子もうかがえる。

「自分や家族の健康」は、男性では80代以上が28%と最も多いが、女性では10代が43%と最も高く、20代で31%となっている。80代以上が19%であることから、年代が上がるにつれ少しずつ減る傾向がみられる。

「防災対策」は、20代女性と70代女性で21%と最も高くなっており、次いで80代以上女性で、19%となっている。

「環境問題」は、10代男性で17%となっているが、男性女性とも70代で10%、11%となっているのが目を引くところである。

問7 生涯学習に関する情報を得やすい媒体は何ですか(3 つ以内で)

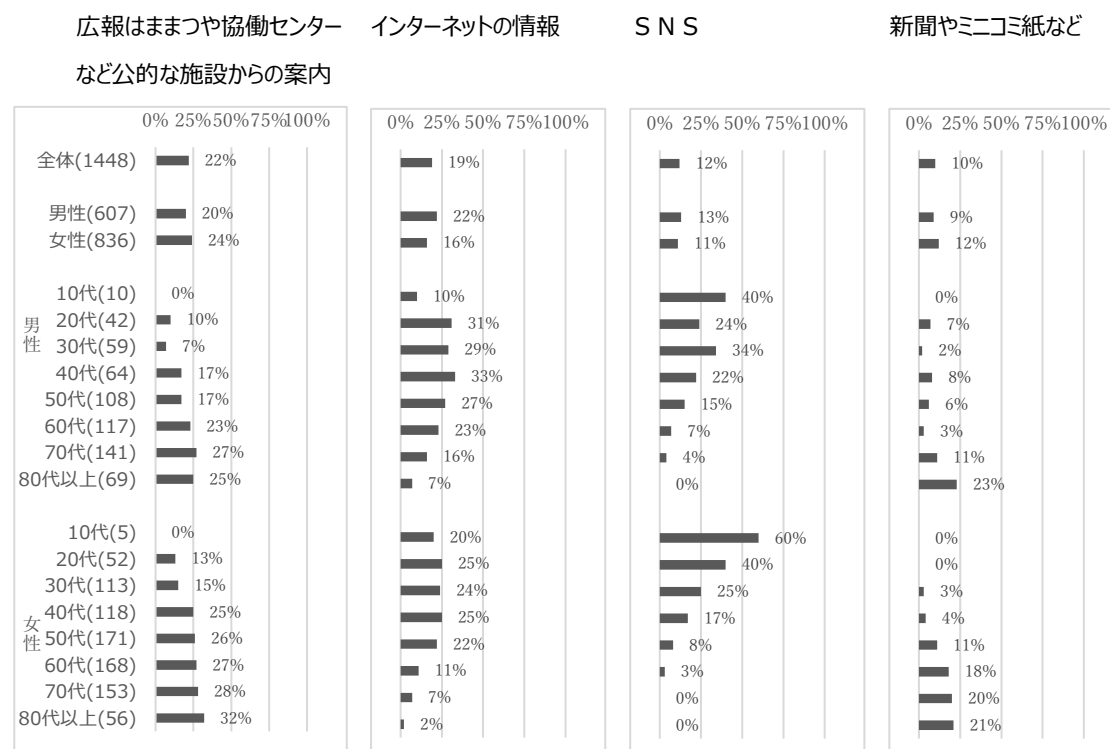


生涯学習に関する情報を得やすい媒体は何ですかと尋ねたところ、「広報はままつや協働センターなど公的な施設からの案内」が 22%と最も高く、多くの市民が公的施設等からの案内に関心を持っていただいていることがわかる。続いて「インターネットの情報」が 19%、「SNS」が 12%となっており、3 割以上がオンラインで情報を得ていることになる。

以下、「新聞やミニコミ紙など」「回覧板」「テレビやラジオ」「家族、友人、知人等からの口コミ」が同率で 10%と続いている。

問 2- 6 で、生涯学習に関する情報をどこで得ているか、との回答と概ね重なるところであるが、得やすい媒体として、「広報はままつや協働センターなど公的な施設からの案内」が「インターネットの情報」よりも多くなっている。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られない。

性別×年齢別で見ると、「広報はままつや協働センターなど公的な施設からの案内」が、80代以上女性で32%と最も高く、次いで70代女性が28%となっている。

「インターネットの情報」は、40代男性で33%と最も高くなっており20代31%、30代29%とビジネス世代の支持が高くなっている。

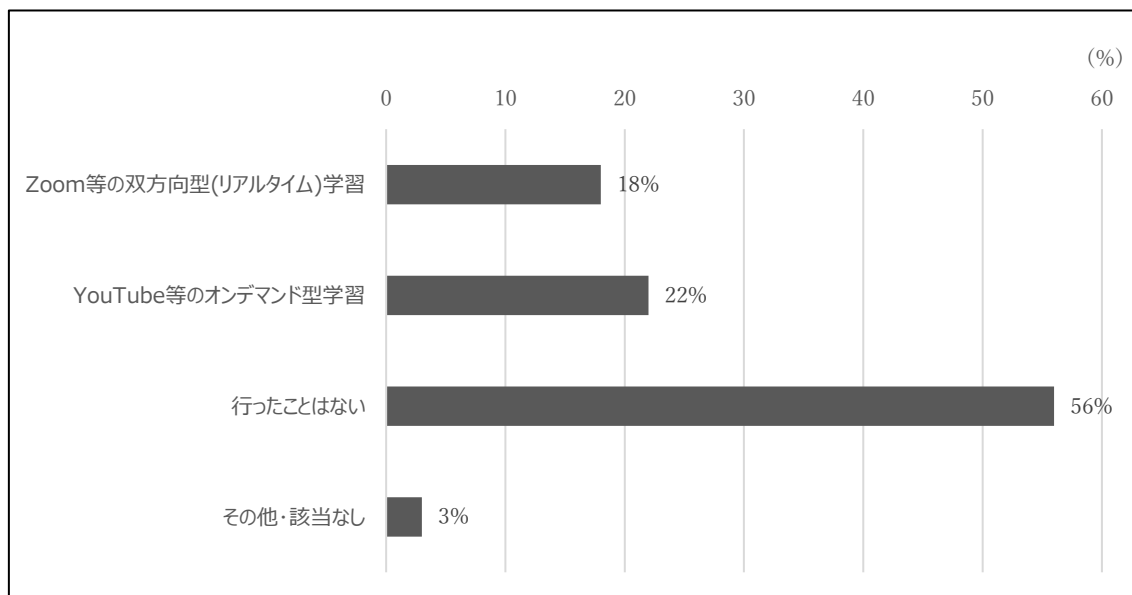
「SNS」は10代女性が60%と最も高く、10代男性と20代女性も40%と高くなっている。

「インターネットの情報」と「SNS」については、若い世代の支持が多く、年代が上がるにつれて減少しており、年代ごとでの差異が極めて大きい。男性女性とも同じ傾向を示しているが、特に、若い女性の「SNS」に対する支持は顕著である。

「新聞やミニコミ紙など」は、男女共に80代以上が高くなっており、80代以上男性が23%と最も高く、80代以上女性も21%と高い結果となっている。

年代による紙媒体と電子媒体への志向の違いはここでも極めて特徴的である。

問8 どのような形態のオンライン学習(インターネットを活用した学習)を行ったことがありますか。

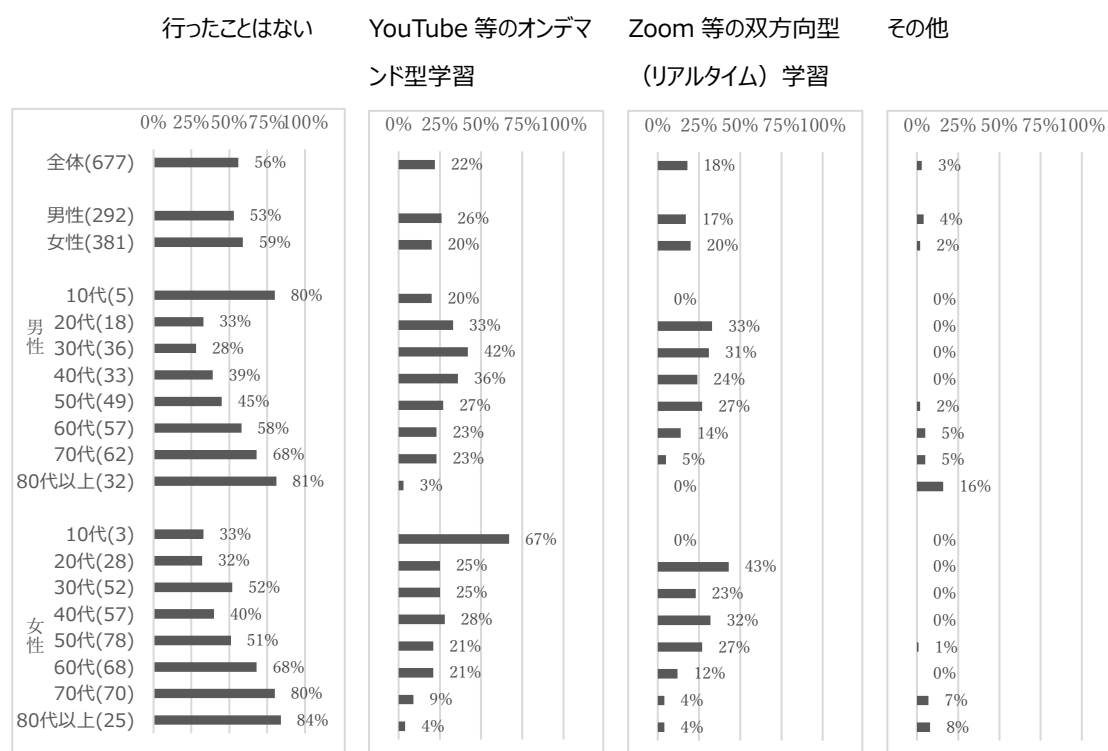


どのような形態のオンライン学習(インターネットを活用した学習)を行ったことがありますか、と尋ねたところ、「行ったことはない」が最も多く 56%であった。

続いて「YouTube 等のオンデマンド型学習」が 22%、「Zoom 等の双方向型(リアルタイム)学習」が 18%、「その他」が 3%と続いている。

行ったことがない方が、半数以上にのぼっており、今後のオンライン学習には十分な開拓の余地があるとも言える。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られない。

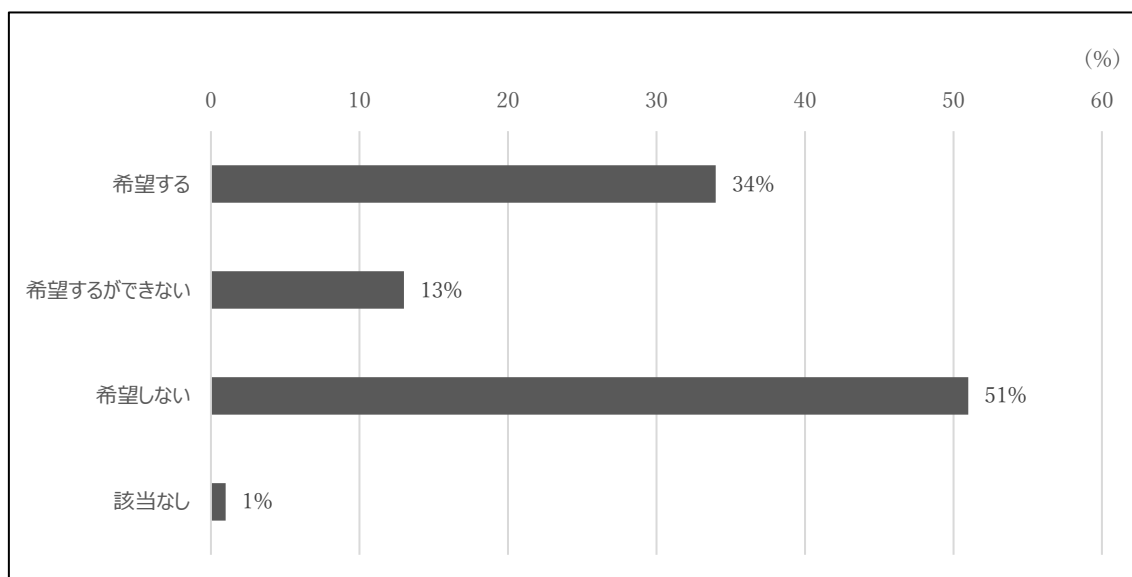
性別×年齢別で見ると、「行ったことはない」が、80代以上女性で84%と最も高く、次いで80代以上男性が81%となっている。これは、高齢者の多くがオンライン学習に馴染んでいないという状況を示している。

「YouTube 等のオンデマンド型学習」は、10代女性で67%と最も高く、次いで30代男性で42%となっている。

「Zoom 等の双方向型 (リアルタイム) 学習」は、男女共に20代が高くなっており、20代女性が43%と最も高く、20代男性が33%と高い結果となっている。

今後、オンライン学習を拡大するためには、より簡易なアクセス手段等の検討や周知が必要と思われる。

問9 オンライン学習に対する希望

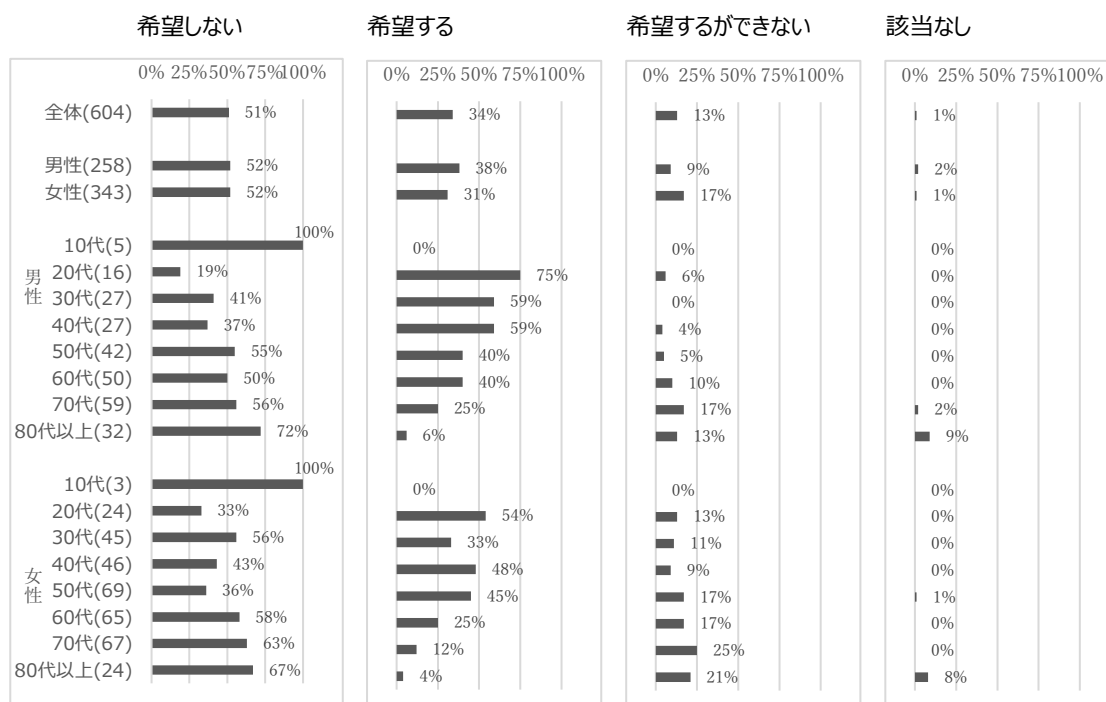


オンライン学習に対する希望を尋ねたところ、「希望しない」が最も多く 51%。続いて「希望する」が 34%、「希望するができない」が 13%、「該当なし」が 1%となっている。

「希望しない」が過半を占めているが、「希望する」と「希望するができない」を合わせると拮抗する状態と見ることもできる。

希望者にどのようにオンライン学習を進めてもらうかが今後の課題ともいえる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られない。

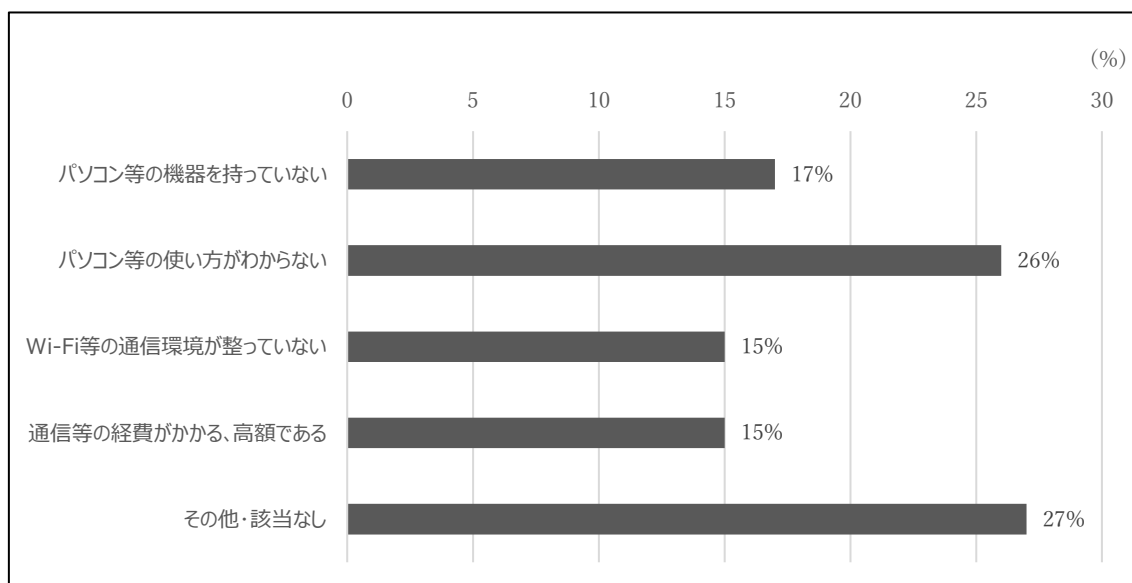
性別×年齢別で見ると、「希望しない」が、10代男性、10代女性で共に100%となっている。回答数は少ないものの、何らかの理由があるのだろうか。

一方、20代では「希望する」との回答が男性75%、女性54%とそれぞれ最多となっており、年代が上がるごとに概ね減少していく傾向にある。

「希望しない」とするのは、男性では50代以上、女性では60代以上に多く、80代以上男性女性で最も高く、それぞれ72%、67%となっている。

「希望するができない」は、比較的女性が多く、70代女性が25%、80代以上女性が21%となっている。高齢の方の割合が高く、希望はしているが、出来ないでいる状況を解消することが課題となる。

問9-1 「希望するができない」その理由をお聞かせください。

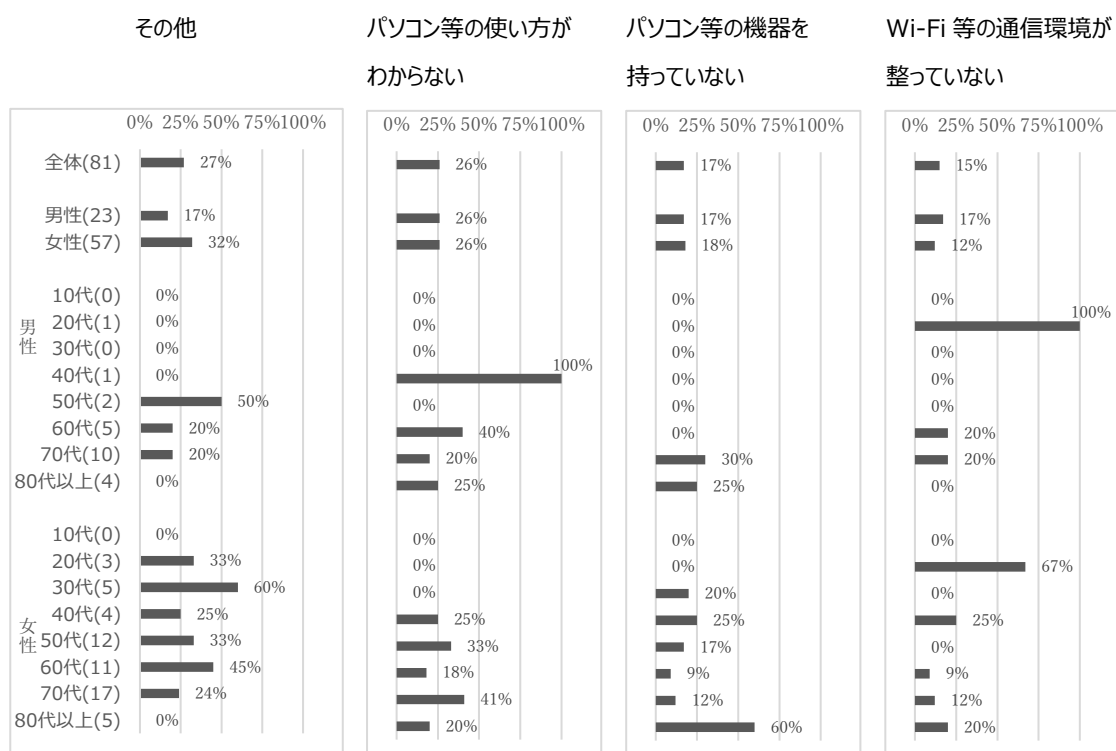


「希望するができない」その理由をお聞かせくださいと尋ねたところ、「その他・該当なし」が最も高く 27%。続いて「パソコン等の使い方がわからない」が 26% と高くなっている。「パソコン等の機器を持っていない」が 17%、「Wi-Fi 等の通信環境が整っていない」が 15%、「通信等の経費がかかる、高額である」が 15% と続いている。

この回答から、使い方の懸念はもちろん、オンライン学習を始めるにあたって、パソコン等の使い方をはじめ、機器の購入や、通信環境を整えるための費用など、簡単に始めることが難しいと考えている方が、多くいることがうかがえる。

今後、オンライン学習の拡大を図る際には、機器の操作やアクセスのしやすさなどについても留意が必要と思われる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較では、「その他」とする女性が32%と多く、「Wi-Fi等の通信環境が整っていない」は男性で17%と高くなっている。

性別×年齢別で見ると、「その他」が、30代女性で60%と最も高く、次いで50代男性が50%となっている。その他の理由としては、決まった時間に合わせられない、対面に比べやりづらい、接続が面倒である、操作が不安、等の意見を頂いている。オンライン学習の環境がすべて整っていないとの意見も数件見受けられた。

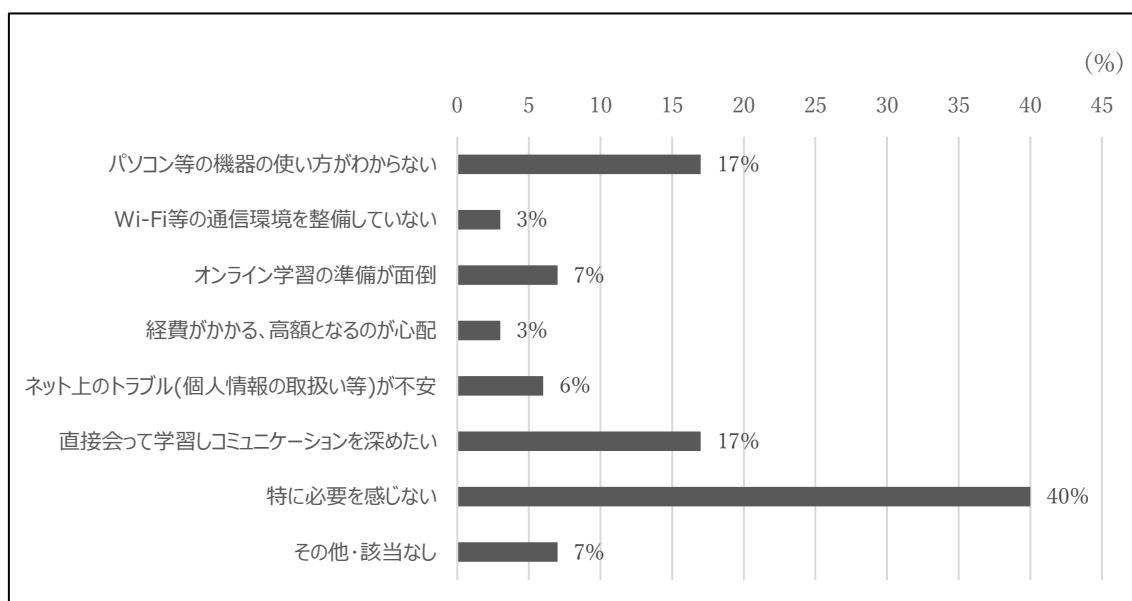
「パソコン等の使い方がわからない」は、40代男性で100%と最も高く、次いで70代女性で41%となっている。

「パソコン等の機器を持っていない」は、80代女性以上が最も高くなっており60%。

「Wi-Fi等の通信環境が整っていない」は20代男性で100%と最も高く、20代女性も67%と、若い世代で高くなっている。

なお、この設問については、男性の20代、40代の回答者が1名であるため、それぞれの回答が100%となっている。

問9-2 「希望しない」その理由をお聞かせください。



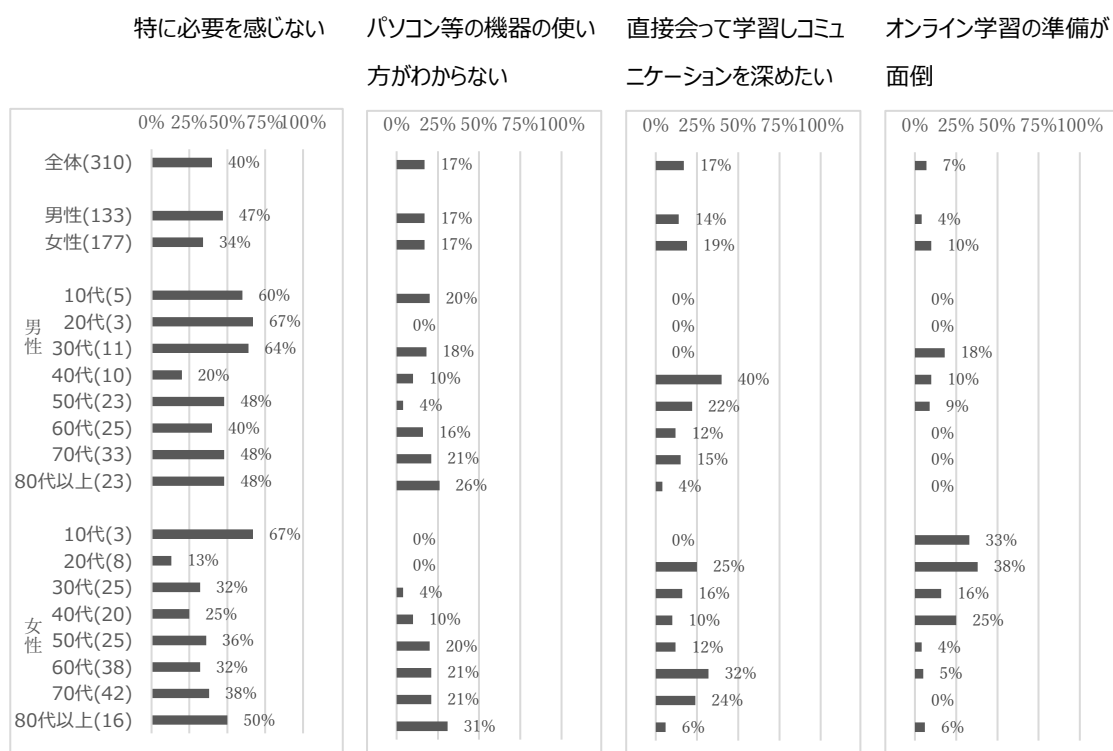
「希望しない」その理由をお聞かせくださいと尋ねたところ、「特に必要を感じない」が最も多く 40% だった。

続いて、「パソコン等の機器の使い方がわからない」と「直接会って学習しコミュニケーションを深めたい」が 17%、「オンライン学習の準備が面倒」、「その他」が 7%、「ネット上のトラブル（個人情報の取扱い等）が不安」が 6% と続いている。

オンライン学習の必要性を特に感じていないとする回答が 4 割を占めていることから、今後オンライン学習を進めていくのであれば、必要性を感じていない方に、どのようにアプローチしていくかが課題となる。

その他の意見には、行くことも楽しみたい、機器があっても子育て環境など別の環境が整わないとの意見もあった。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較では、「特に必要を感じない」とする男性が 47%と多く、「オンライン学習の準備が面倒」との回答では女性が 10%と高くなっている。

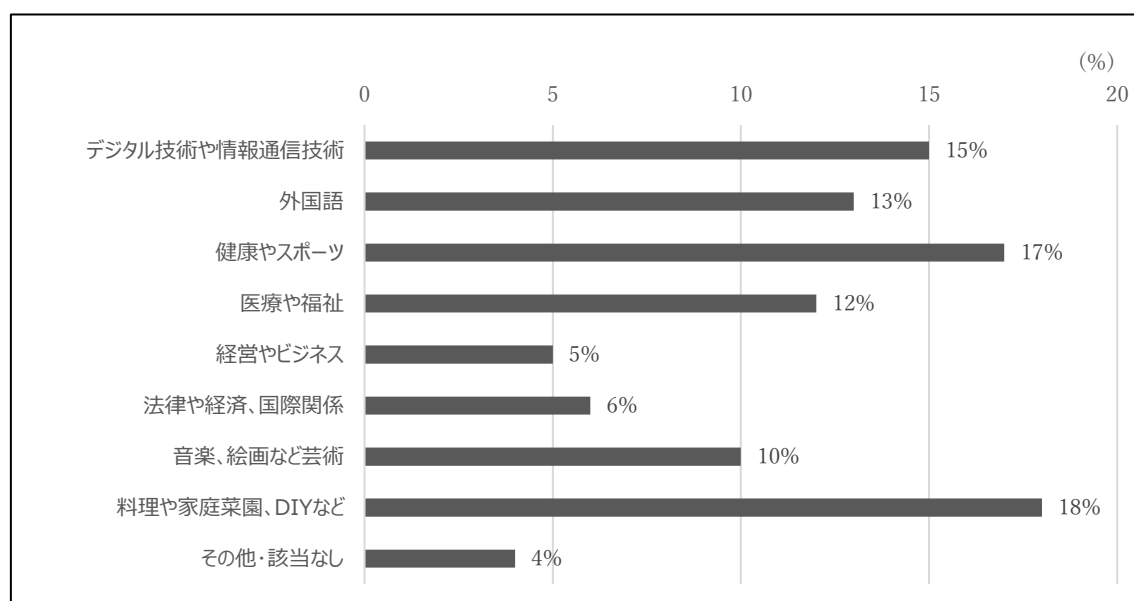
性別×年齢別で見ると、「特に必要を感じない」が、20 代男性と 10 代女性で 67%と最も高く、次いで 30 代男性が 64%となっている。

「パソコン等の機器の使い方がわからない」は、80 代以上女性で 31%と最も高く、次いで 80 代以上男性が 26%と、高齢の方に多いことがわかる。

「直接会って学習しコミュニケーションを深めたい」は、40 代男性が 40%と最も高くなっており、続いて 60 代女性が 32%となっている。

「オンライン学習の準備が面倒」は 20 代女性で 38%と最も高く、次いで 10 代女性で 33%となっており、若い層で高くなっている。

問10 学び直しについて伺います。どのような分野でのスキルアップやリスキリングに興味がありますか(3 つ以内で)



どのような分野でのスキルアップやリスキリングに興味がありますか、と尋ねたところ、「料理や家庭菜園、DIY など」が最も多く 18%。続いて「健康やスポーツ」が 17%、「デジタル技術や情報通信技術」が 15%、「外国語」が 13%となった。

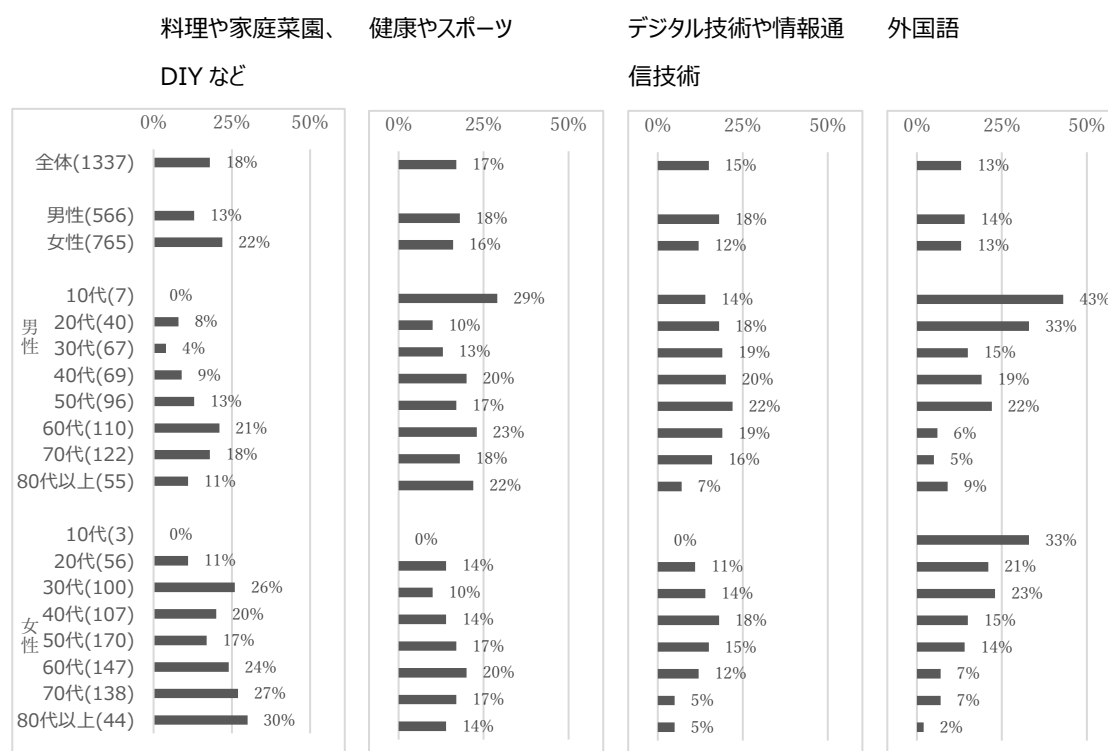
以下、「医療や福祉」が 12%、「音楽、絵画など芸術」が 10%と続いている。

スキルアップやリスキリングの分野としては、生活に身近なものが上位を占めている。

このようななかで、「デジタル技術や通信技術」が 3 番目に挙げられており、関心の高さが示されている。

「その他・該当なし」が 4%あるものの、学び直しについては総じて、多くの方が意欲的である様子が見えてくる。

性別/性別×年齢別



男性女性での比較では、「料理や家庭菜園、DIY など」については女性が22%と、男性の13%を大きく上回っており、「デジタル技術や情報通信技術」については男性が18%と女性の12%を上回っている。

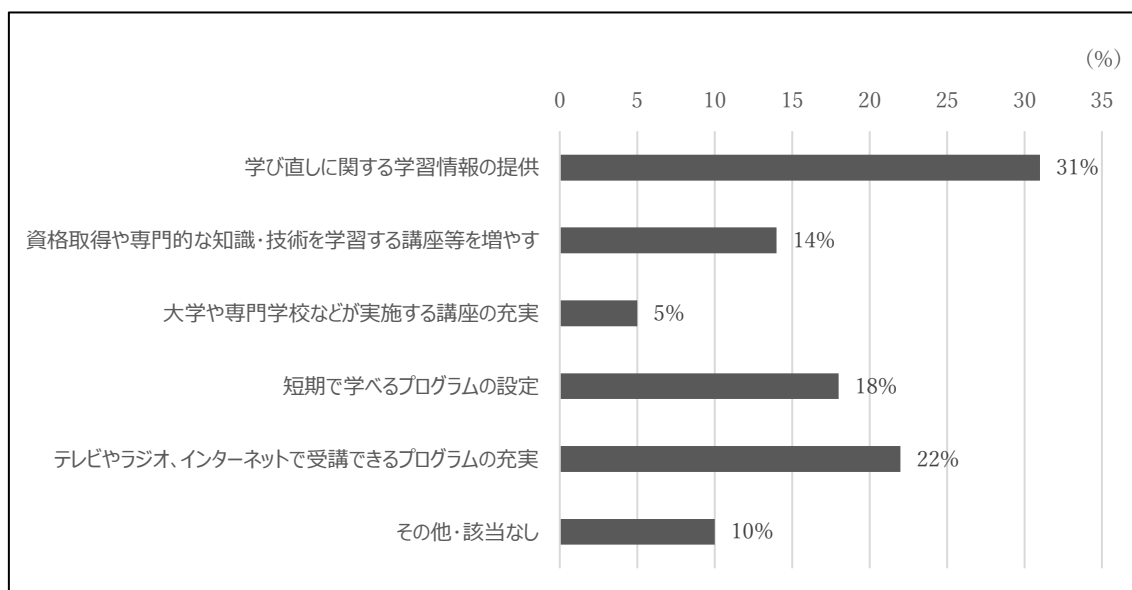
性別×年齢別で見ると、「料理や家庭菜園、DIY など」が、60代以上の女性に多く、80代以上で30%と最も高く、次いで70代で27%となっている。

「健康やスポーツ」については、概して男性の回答が多くなっているが、それぞれの年代で安定した回答を得ている。

「デジタル技術や情報通信技術」については、それぞれ30代から50代の支持が高くなっており、それぞれの年代で男性の支持が高くなっている。

「外国語」は、それぞれ若い年代の回答が多く、高齢層に向けて減っていく傾向が読み取れる。

問11 学び直しを支援するために最も効果的だと思われることを選択ください。

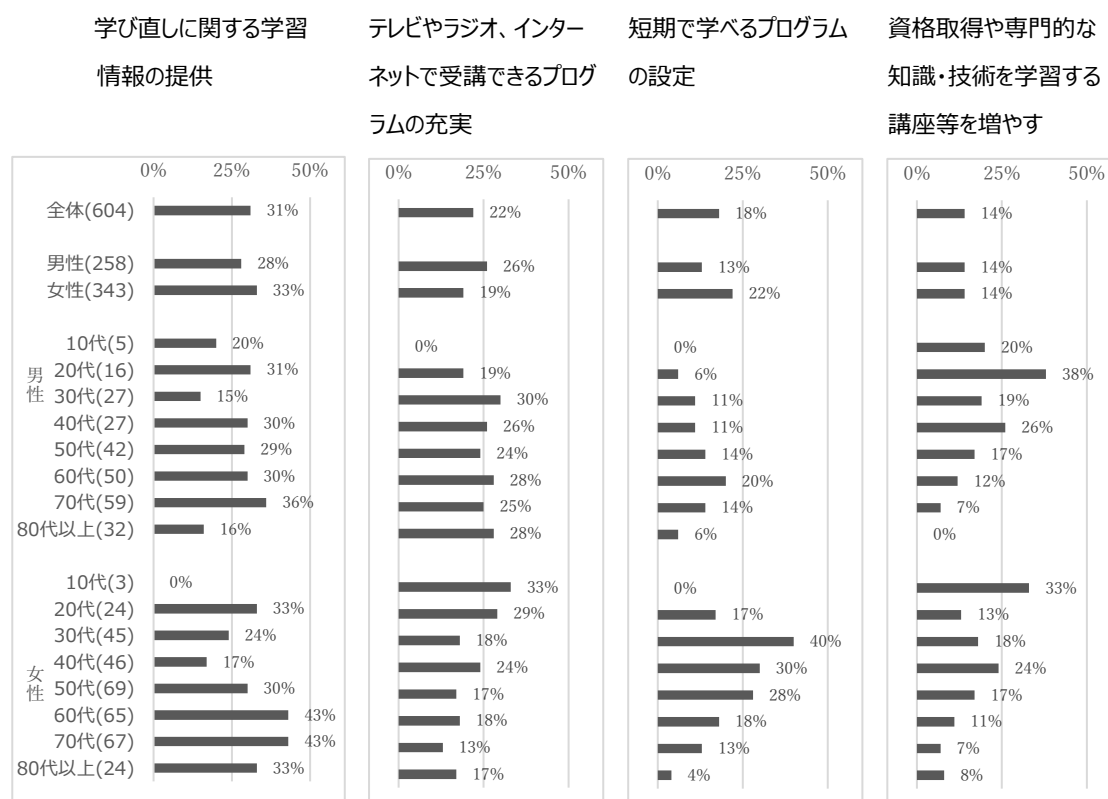


学び直しを支援するために最も効果的だと思われることを選択くださいと尋ねたところ、「学び直しに関する学習情報の提供」が最も多く 31%。続いて「テレビやラジオ、インターネットで受講できるプログラムの充実」が 22%、「短期で学べるプログラムの設定」が 18%となっている。学習情報の提供とともに、時間がない中でも、自分の時間に合わせて学ぶことができる機会が必要とされているものと推察される。

以下、「資格取得や専門的な知識・技術を学習する講座等を増やす」が 14%、「その他・該当なし」が 10%、「大学や専門学校などが実施する講座の充実」が 5%と続いている。

問2-6において学習情報の取得先について伺っているが、それに類する回答とともに、参加しやすいプログラムの設定や専門的な内容の講座等に対する興味や関心がうかがわれる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較では、「テレビやラジオ、インターネットで受講できるプログラムの充実」については男性が26%と女性の19%より多くなっており、「短期で学べるプログラムの設定」については女性が22%と男性の13%を大きく上回っている。

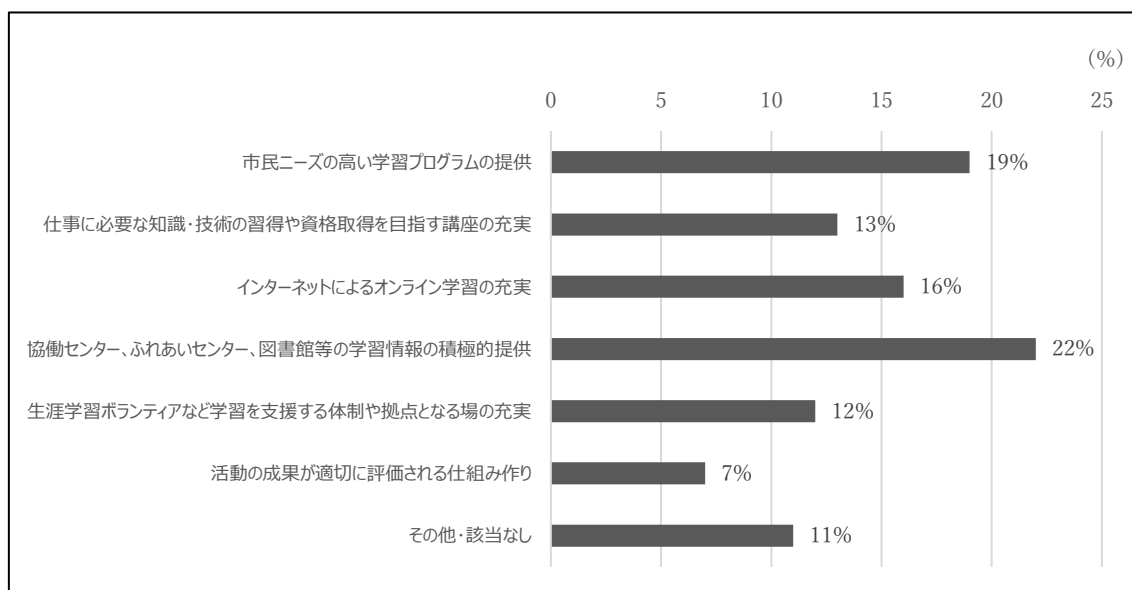
性別×年齢別で見ると、「学び直しに関する学習情報の提供」は60代女性と70代女性が43%と最も高く、男性でも70代で36%と、高齢層の回答が高くなっている。

「テレビやラジオ、インターネットで受講できるプログラムの充実」は、それぞれ各世代から安定した回答を得ている印象である。

「短期で学べるプログラムの設定」は、30代女性が40%と最も高くなっており、続いて40代女性が30%、50代女性が28%となっている。子育て、家事、仕事、介護等で時間がないとする意見が多数寄せられていたが、こうしたなかでも参加できるプログラムが期待されているものと思われる。

「資格取得や専門的な知識・技術を学習する講座等を増やす」については、20代男性で38%と最も高くなっている。若い年代において、社会に出て役立つ資格や知識を身に着けたいという希望が多い事が推察される。他方、男性女性ともに、年代が上がるにつれて減少していく傾向がうかがわれる。

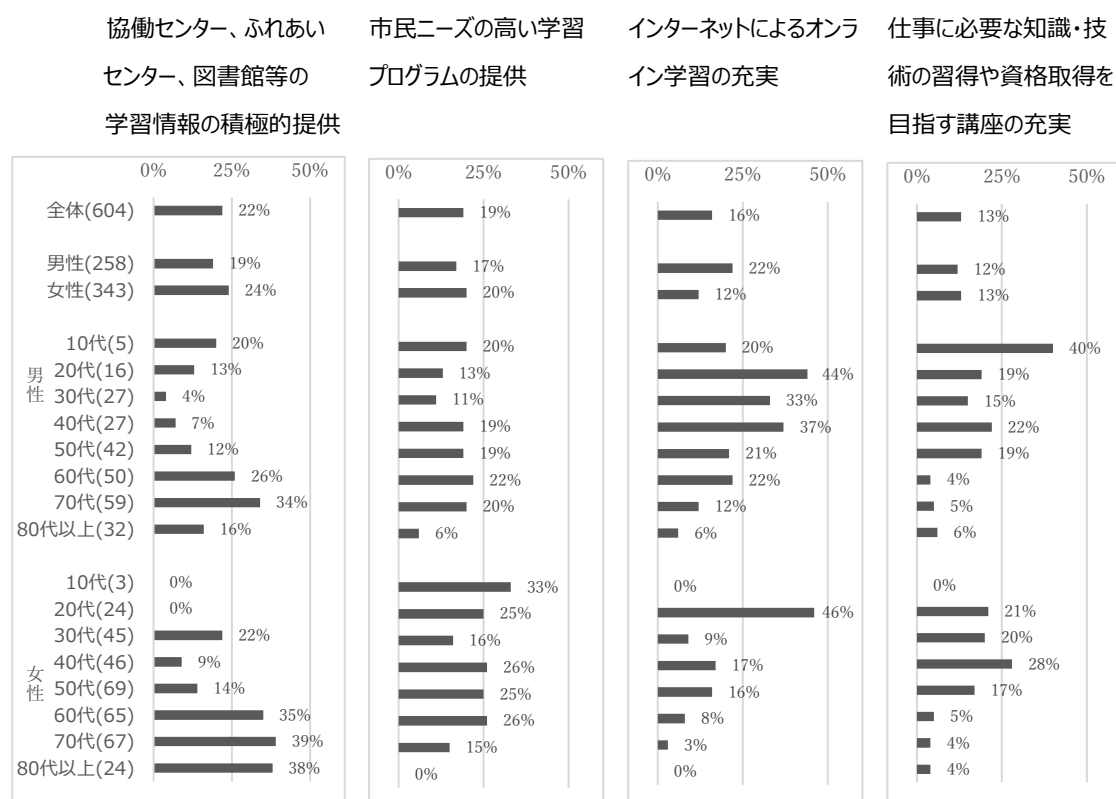
問12 生涯学習の機会を拡大するために市が最も力を入れるべきことは何ですか。



生涯学習の機会を拡大するために市が最も力を入れるべきことは何ですかと尋ねたところ、「協働センター、ふれあいセンター、図書館等の学習情報の積極的提供」が最も多く 22%。続いて「市民ニーズの高い学習プログラムの提供」が 19%、「インターネットによるオンライン学習の充実」が 16%、「仕事に必要な知識・技術の習得や資格取得を目指す講座の充実」が 13%、「生涯学習ボランティアなど学習を支援する体制や拠点となる場の充実」が 12%と続いている。

他の設問と同じく、市民の多くが学習情報の積極的な提供を望んでおり、学習機会の拡大に対する期待が推察される。

性別/性別×年齢別



男性女性での比較では、「インターネットによるオンライン学習の充実」について男性が22%、女性が12%と差が出たが、それ以外では大きな違いは見られない。

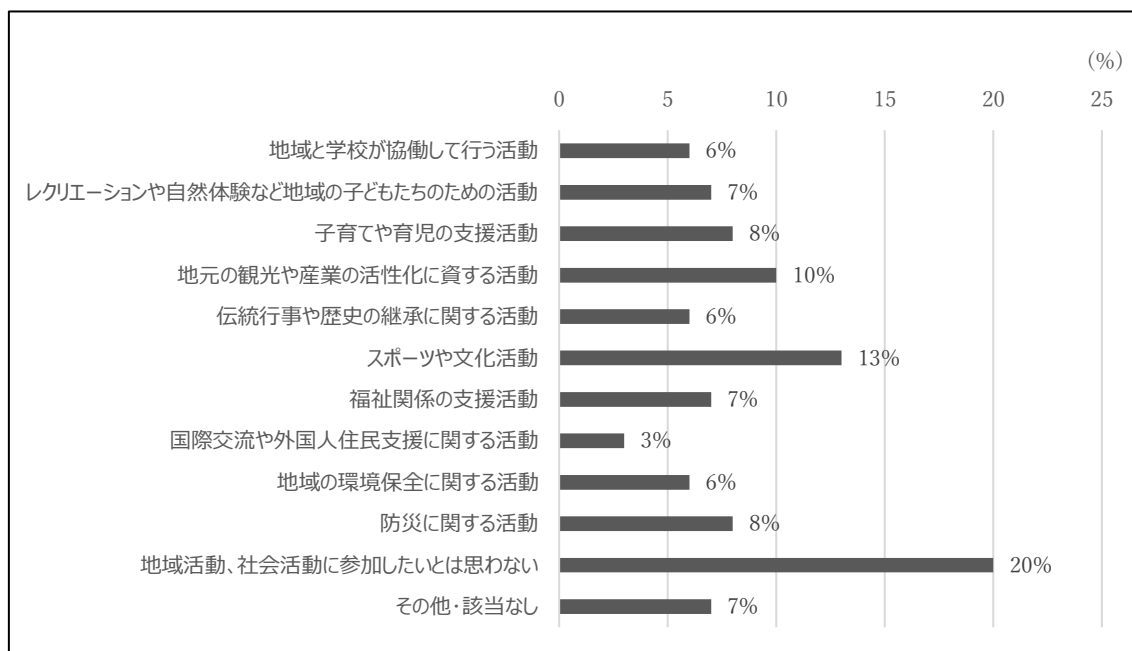
性別×年齢別で見ると、「協働センター、ふれあいセンター、図書館等の学習情報の積極的提供」は、60代以上の女性層で多く、70代が39%と最も高く、次いで80代以上が38%となっている。

「市民ニーズの高い学習プログラムの提供」は、男性女性とも各年代で一定の支持を得ているが、どの年代でも女性の回答が高くなっている。

「インターネットによるオンライン学習の充実」は、男性女性とも20代が最も高く、20代女性が46%、20代男性が44%となった。また、男性女性とも年代が上がるともに減少する傾向が見られるが、それぞれの年代で男性の回答が高くなっている。

「仕事に必要な知識・技術の習得や資格取得を目指す講座の充実」は、男性女性ともに50代までの回答が多く、60代以上では低下している。

問13 今後、地域社会においてどのような活動に参加してみたいと思いますか。



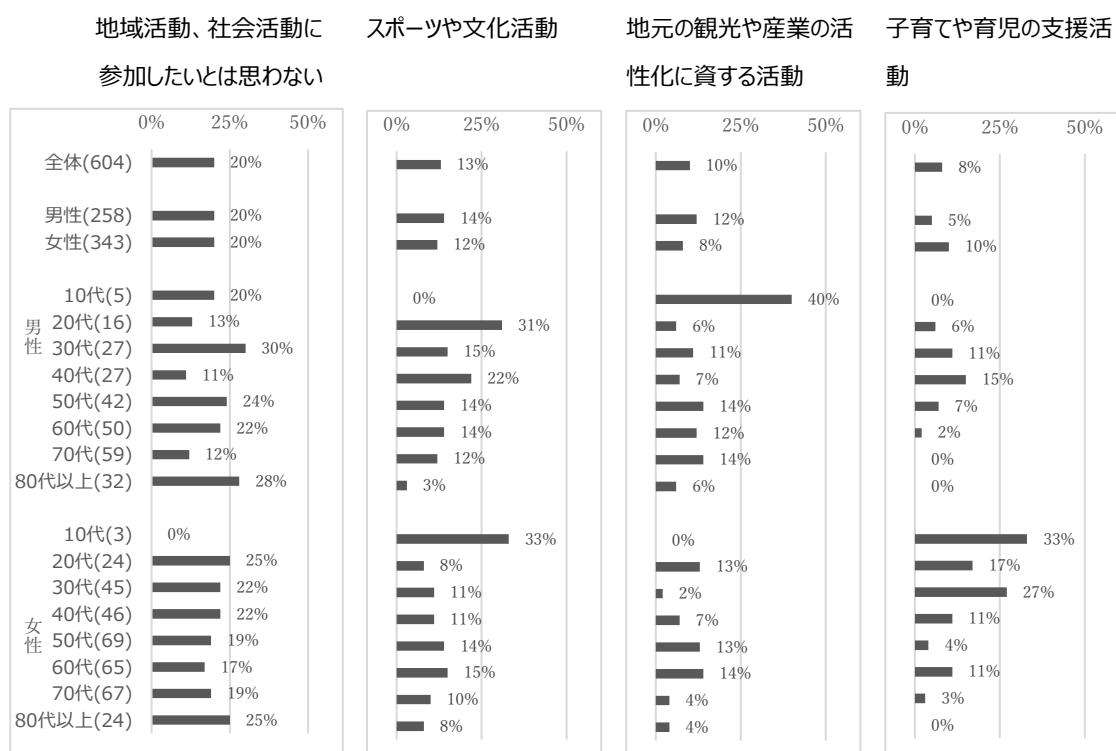
地域社会においてどのような活動に参加してみたいかと尋ねたところ、「地域活動、社会活動に参加したいとは思わない」が20%と最も多い。これは、見方を変えれば、回答者の80%は、地域社会において何らかの活動に参加したいと考えていると解することもできる。

その活動内容としては「スポーツや文化活動」が13%、「地元の観光や産業の活性化に資する活動」が10%、「子育てや育児の支援活動」が8%となっている。以下「防災に関する活動」が8%、「レクリエーションや自然体験など地域の子どもたちのための活動」と「福祉関係の支援活動」が7%と続いている。

これ以外の活動内容についても大きな差は無く、回答者は比較的幅広い地域活動に対して興味を持っている様子が推察される。

この回答については、「スポーツや文化」の13%から「国際交流や外国人住民支援に関する活動」の3%まで幅広く分散していることが特徴となっていると思われる。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られないが、「子育てや育児の支援活動」については女性の10%に対して、男性は5%となっている。また、「地元の観光や産業の活性化に資する活動」については男性の12%に対して女性が8%となっている。

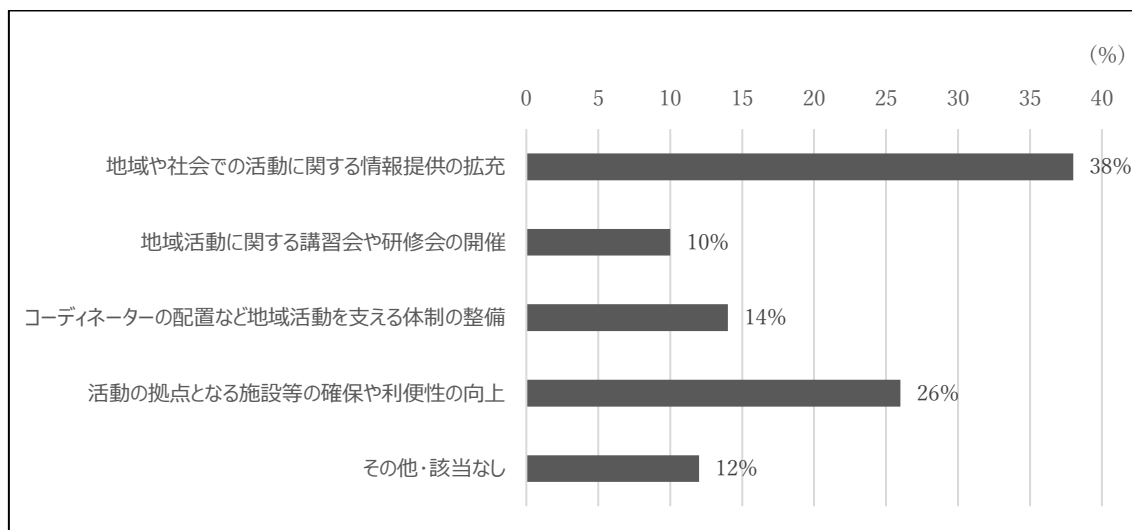
性別×年齢別で見ると、「地域活動、社会活動に参加したいとは思わない」が、30代男性で30%、80代以上男性で28%であった。

「子育てや育児の支援活動」は、10代～30代女性の支持が高く、10代で33%、30代で27%となっており、これから子育て期を迎える世代、今実際に子育てをしている世代の支持が高くなっている。

「スポーツや文化活動」は、20代～40代男性の支持が高く、20代で31%、40代で22%となっている。

先に見てきたとおり、地域社会における活動については、それぞれの年代でそれぞれの活動に対する関わりが幅広くとらえられている様子がうかがえる。

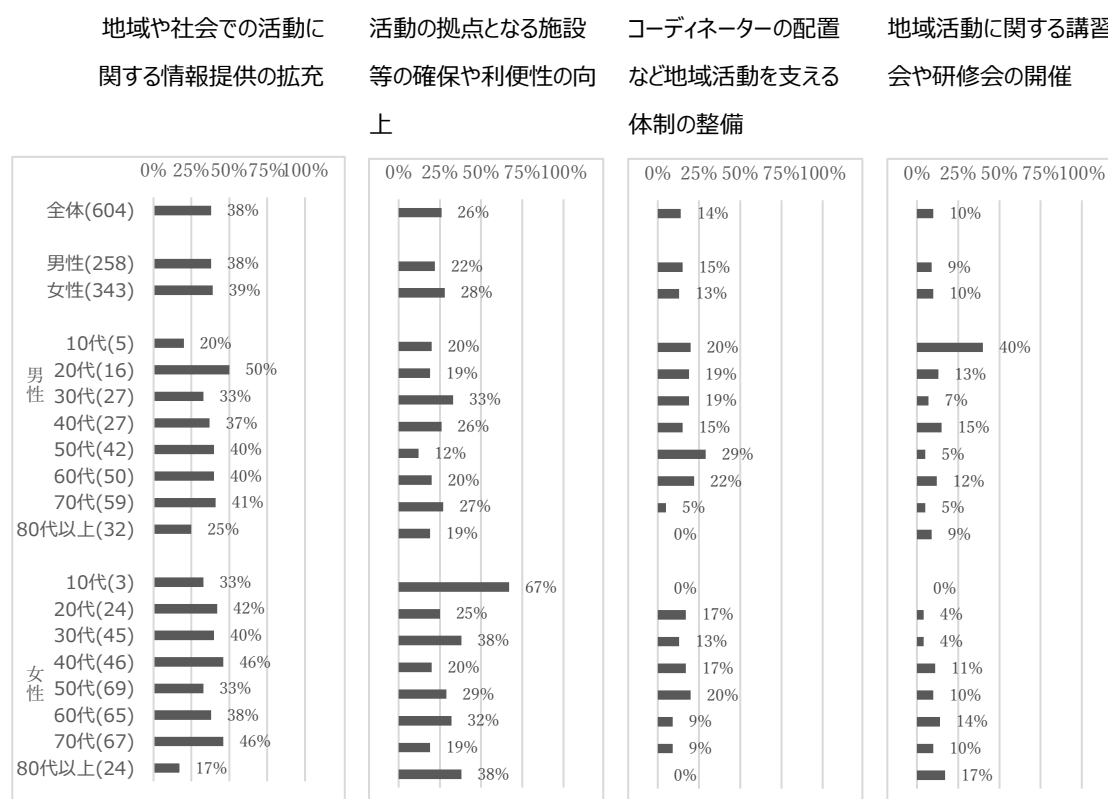
問14 上記の地域活動に参加しやすくするために最も必要なことは何ですか。



地域活動に参加しやすくするために最も必要なことはと尋ねたところ、「地域や社会での活動に関する情報提供の拡充」が 38%と最も多く、続いて「活動の拠点となる施設等の確保や利便性の向上」が 26%、「コーディネーターの配置など地域活動を支える体制の整備」が 14%、「その他」が 12%、「地域活動に関する講習会や研修会の開催」が 10%となっており、参加するための情報や、施設を利用するにあたっての利便性を求めていることがわかる。

また「その他」として「同世代が多いこと」「職場や家族の理解」「楽しさやワクワク感」「自分自身のやる気」「煩わしくない人間関係」などの意見が寄せられている。

性別/性別×年齢別



男性女性の比較で大きな差は見られない。

性別×年齢別で見ると、「地域や社会での活動に関する情報提供の拡充」が、男性女性とも各年代で高くなっており、最も高いのは20代男性の50%で、40代70代女性も46%と高い結果となった。

学習機会の提供や学び直しなど、これまでの設問に対する回答でも、「情報提供の充実」とするものが多く、この設問でも同様となっている。

「活動の拠点となる施設等の確保や利便性の向上」についても、それぞれ大きな差は認められないが、各年代で少しずつ女性の支持が多くなっている。

「コーディネーターの配置など地域活動を支える体制の整備」は、50代男性で29%と高く、60代男性で22%となっている。

「地域活動に関する講習会や研修会の開催」は、10代男性の支持が40%と最も高く、続いて80代以上女性で17%となっている。

Ⅲ. 生涯学習に関する自由意見

今回の調査において、設問後に生涯学習に関する自由意見を求めたところ 145 人から 189 件の意見が寄せられました。

その内容は以下のとおりです。一人が複数の意見を記入している場合は、それぞれの意見を 1 件としました。

生涯学習に関する意識活動実態調査における自由意見

	意見区分	件数	構成比
1	生涯学習とは	5	2.6%
2	生涯学習の意義や目的	11	5.8%
3	この調査について	6	3.2%
4	行政への要望	21	11.1%
5	情報発信	12	6.3%
6	講座、イベント等への意見要望	31	16.4%
7	オンラインでの講座開催など	6	3.2%
8	これまでの経験から	16	8.5%
9	活動していない/気持ちはあるができていない	17	9.0%
10	時間がない/余裕がない	15	7.9%
11	施設や会場	10	5.3%
12	その他	39	20.6%
	計	189	100.0%

※自由意見の記載は、その趣旨を損なわない範囲でまとめさせていただいております。ご了承ください。

1 生涯学習とは

- ・生涯学習の定義は？（60 代男性）
- ・「生涯学習」は地域や個人にこういったメリットをもたらすのか？（60 代男性）
- ・日常気になること、興味のあるものを、見つめ調べる。そして、それらの事への知識を深め自分なりに納得して楽しさを知る。それが私にとっての生涯学習。それに共感した人達と語り合い、仲間ができ、思いを広げられていく。新しい発見、それがうれしい。（70 代女性）
- ・生涯学習とはどういうことか理解している人ばかりではないと思う。具体例等があるとよい。（40 代女性）
- ・生涯学習という言葉が何か勉強＝机の上の事と思われてしまう。（80 歳以上男性）

2 生涯学習の意義や目的

- ・自分自身を高めることと同時に、人とのかかわりも生まれることにより、心身ともに豊かになれること。(60代女性)
- ・生涯学習は老後生活を楽しく過ごすにはとても良いことだと思う。(60代女性)
- ・生涯学習は、それぞれの年齢で学べる、楽しめる活動と思っている。(60代女性)
- ・生涯学習は、機会や意欲がなければ自ら希望して行うことは少ないと思う。職場で生涯学習の案内をしたり、関心をもてるような説明があるとよい。また、どの地域でも、誰もが生涯学習を行える環境も必要と思う。(20代女性)
- ・子どもの頃から生涯学習について学ばせ、学び続けることの大切さや、生涯学習が普通のことだという認識を植え付ける。(50代男性)
- ・生涯学習は大切な事だと思うが、「広報はままつ」くらいでしか情報を目にする事がなく、少し敷居が高く感じる(老人には)。少しでも早い時期に学ぶ手がかりが出来ると後になって継続出来ると思う。(70代女性)
- ・自分自身で知的向上心のある方は、自ら知識向上や自ら異なる事業や分野への挑戦を試みられればよい。地域貢献を行いたい方は、今までの経験や資格や実績を通じて、地域ごとで新たな課題に関して対応していく。例えば、地域の空き家問題、地域の商店街の活性化など。後期高齢者の方も、過去の経験等を生かしてなにかしらの支援ができればと思う。(70代男性)
- ・生涯学習の意味を伝えること。なんで生涯学習が必要か？これからの生活が良くなる？など市民の理解、興味を上げる事が大切だと思う。(40代男性)
- ・人生を楽しむ。(70代男性)
- ・よりよく生きるために生涯学習は必要。生涯学習を続けるためには時間的、経済的、精神的な余裕が必要。一人ひとりの人権を尊重しあえる方向に進んで欲しい。(70代女性)
- ・人生百年の正しい生き方。(70代男性)

3 この調査について

- ・なぜ今回こうした調査を行うのか。(60代男性)
- ・この調査によって行政はどのようなアクションを始めるのか。(60代男性)
- ・生涯学習を市が実施する前提のアンケートはおかしい。(40代男性)
- ・この調査結果が、今後の生涯学習に生かされ誰もが安心して自己の健康寿命の維持増進に邁進できるような社会になることを期待する。(80代以上女性)
- ・パソコンやスマホを持たない私には答えにくいアンケート。一方的な質問だと思った。(70代男性)
- ・今回の分析結果を「広報はままつ」等にて周知願います。(70代男性)

4 行政への要望

- ・無料で学習する事が出来る環境。(50 代男性)
- ・何かを身につけたいと思ったら市で主催するものには期待しない。おざなりな講座しかやれないだろう。時間の無駄である。(50 代男性)
- ・目標となるコンクール・検定などを設けたり、仲間と頑張れるようにメタバース等でコミュニティの場を作るなど、抵抗感無く取り組めると良い。(20 代女性)
- ・老人クラブや子ども会など、地域との関わりが大きい活動を積極的に支援することで、より生活に根付いた学習機会を提供できるのではないか。(50 代男性)
- ・自ら機会を見つけることが重要だが、機会の充実にも取り組んで貰いたい。
(30 代男性)
- ・行政の方々には、市民のニーズを幅広くキャッチしていただけるとありがたい。
(50 代女性)
- ・小学生の子供達など若い方を呼び出すような催しも必要。(70 代女性)
- ・浜松市は高齢者の移動手段に関して無策である。(70 代男性)
- ・個々の問題や学ぶべきことに的を絞って、市民の意識が高まるようになればと思う。
(50 代女性)
- ・行政主導で行うとどうしても押し付けられる感じがする。地域の活動を通じてそれとなく寄り添う活動が良いのではと思う。(70 代男性)
- ・本人のやる気（必要性）が一番大切で、本人自らがやりたい事をやりたい時にやれる範囲で行う事が大事。市がやるべきは、必要最小限のフォロー。費用対効果を示せる活動を期待する。(60 代男性)
- ・老々介護の状態で生涯学習など理念の高い事は望むべくも無い。せめて行政でできる事を自治会に押し付けないで。(ゴミ問題/消防団/自治会費の高さ)(60 代男性)
- ・地域密着の活動を増やしてほしい。人とのつながりを大事にしたい。(30 代女性)
- ・生涯学習については、こういった調査をするだけでなく、スピーディに何か対策につなげていかなければ市民の気持ちも冷めていってしまう。(30 代男性)
- ・公共施設や交通費など無料であればもっと出かけやすく、友人同士で集まって勉強や健康づくりに参加できると思います。(80 代以上女性)
- ・若い世代を対象とした地域での活動、特にボランティア活動に関する学習、講座等に力を入れていただければと思う。(80 代以上女性)
- ・専門的な指導者に相談しやすい環境作りを希望。(50 代男性)
- ・本来、自発的に参加すべきであるが、交流もない中で行動を起こせる人は限られることから、公の側から動きを起こしてもらえれば、参加が増えるだろう。(孤立している人たちは一般的に消極的)(70 代男性)
- ・費用対効果に疑問あり。(70 代男性)
- ・自治体は、減税など個人の将来不安が無いよう手助けして欲しい。(30 代男性)

- ・税金は少子化対策に集中して使って欲しい。(40 代男性)

5 情報発信

- ・健康管理や病気になった時、早期治療につなげる情報発信の充実を。(50 代男性)
- ・本アンケートで初めて生涯学習を意識した。現在子供が二人(未就学児)いるが、学校や会社とは違う環境で主体的に学び、学ぶことが楽しいと思える環境があるとありがたい。親子で取り組める機会があると更に嬉しく思う。(30 代男性)
- ・常に情報が得られる環境であれば嬉しい。その情報も、これから始めようとする者にもわかりやすく丁寧に書かれたものであってほしい。(60 代女性)
- ・このアンケートを見るまで生涯学習の宣伝を見たことも聞いたこともなかったのでもっと宣伝して欲しいと思った。(20 代女性)
- ・求める方に情報が届きやすくなっていると良い。(40 代女性)
- ・実際に参加するきっかけがない。情報も耳にする機会も少ない。(40 代女性)
- ・子供の頃は、学校等から情報が入りやすく興味があった。大人になって時間がとれず、協働センターへも用事がないと行かない為、情報が入らなくなり気軽に足を運べない。企業と協力して目につきやすい場所（人の集まる場所）に案内などがあると興味が向くかもしれない。(30 代女性)
- ・習い事やイベントなど生涯学習に関する情報や問い合わせ先が検索できるプラットフォームのようなインターネットサイトがあったら活用してみたい。(30 代女性)
- ・どのようなボランティアがあるか知りたい人も多い。もっと発信を。(60 代女性)
- ・生涯学習に興味を持つ、参加するまでの過程が難しいと思う。良い取り組みをどのように知ってもらい参加を促進するかが大事だと思う。(40 代男性)
- ・市が生涯学習を推進していることを初めて知った。市の啓蒙活動が不足していると、今回感じた。個人的には、邪馬台国について勉強したい。(70 代男性)
- ・何かやってみたいと思いつつ、忙しさと広報もあまり目を通せず、マンションで回覧板を見るタイミングも逃し、新聞もとっていない。あきらかに情報不足を感じた。SNS やネットでも目に入る機会がもう少し増えると良い。このアンケートをきっかけに、もっと情報収集をしなくてはと思った。(50 代女性)

6 講座、イベント等への意見要望

- ・1つのカテゴリーで12講座とか、決められた期間内で受けたいコマ数や受講の曜日や時間帯をフレキシブルに対応してもらえたら受講しやすいと思う。(50 代女性)
- ・ただ学ぶだけでなく、それを生かして資格なりポイントや奨励金などの特典を付けて、学習意欲をより高めてもらいたい。その講座なりセミナーを修了したら、その成果を発表する場所を提供していただきたい。(70 代男性)
- ・パソコンの講座を申し込んだが、定員に満たないため開講されず残念。仕事を始め

るにあたって最低限必要なスキルを身につけたいと思う。年齢制限なく参加できる講座がもう少しあれば嬉しい。市の講座はテキスト代のみ、または低料金で参加できるため広報の募集（講座）を楽しみにしている。（50代女性）

- ・防災にまつわる講座の充実。（70代男性）
- ・平日は仕事。土日などで活動できる機会が増えると利用しやすい。（50代女性）
- ・以前、文化センターや共同スペース（コワーキングスペース）での生涯学習に参加したことがあった。通いや費用のことから今は辞めている。近場で、1回完結のワークショップでリーズナブルなものがあると参加しやすいのだが。（30代女性）
- ・天竜区は、他の区に比べて講座自体が非常に少ないと感じる。（40代男性）
- ・旧浜北区に住んでいるときに於呂の学習センターで簿記講座を受講し資格もとることができた。とても感謝している。（40代男性）
- ・たまに広報で婚活の企画を見るが、参加しやすい生涯学習で、出会いの場や知識・技術の取得にもつながる事業を期待する。（60代女性）
- ・親の介護で仕事を辞める人もいる。高齢者の生活が健康で充実していれば、介護も少しは楽になると思う。自分が楽しめお金のかからない講座を希望。（60代女性）
- ・認知症対策で地域での運動等を行ってもらいたい。（60代女性）
- ・協働センターの募集に応募する事があるが、抽選にはずれ勉強する事ができない。応募の多い時は再度開催してもらいたい。（70代女性）
- ・学び直しに対する社会人のニーズは一定数あると思う。企業でのリスキリングは仕事に準じたもの。市の歴史や文化を学び直し、後世へ継いでいくことも重要と思う。伝統や文化を、実際に見て体験することの市民ニーズは高いのではないか。人と人とのつながりが希薄な世の中では、文化が衰退する一方だ。昔から続く文化や伝統は、人と人とのつながりを維持し、円満に過ごすためにあると思う。市を挙げて講座の開設をしていただきたい。（40代男性）
- ・無理のない参加条件の案件が多くあれば参加者が増えると思う。（20代男性）
- ・なるべく誰にでもわかりやすく教えてもらえること。（80代以上女性）
- ・「広報はままつ」等で申し込んでも満員で断られてしまう。募集人数を増やす工夫が必要。学びたい気持ちが失われてしまう。生涯学習の分野（メニュー）をもっと増やして、参加したい気持ちのある人を取り込んでほしい。老人でも学習したい、役立ちたいと思っている人はたくさんいます。（70代女性）
- ・協働センターの講座は年配の方々のグループが出来ているイメージが強く、参加にためらいがある。仕事をしている人でも参加しやすい土日や平日の夜などの時間が良い。（40代女性）
- ・広報で見る生涯学習。興味あるものに参加したいと思うが、自由に使える金額が限られおり参加しにくい。子育てのリフレッシュに、とも思うが、託児付の講座は無く諦めている。チラシに、子連れOKなどの記載があると助かる。（30代女性）

- ・小さい子がいる親のために、生涯学習をしている間、保育の環境を整備して欲しい。参加できる人の幅が増えていくと思う。(20代男性)
- ・ヨガ、気功等を参加して学ぶ事により、日常生活が充実したものになり、転倒などを防ぐことができる。(80代以上女性)
- ・市の事業は平日のものが多く参加しにくい。働いている世代でも参加しやすい時間や場所を提供していただけるともう少し興味が持てると思う。(30代女性)
- ・気軽に行ける場所(距離)の確保と安価な経費設定。数年前、敬老会等で披露するため手品の講習を受講したが、道具の購入に結構かかった。(80代以上男性)
- ・魅力ある学習にするには講座やセミナーの質が重要であると思う。(30代男性)
- ・機会を多くして、気軽に参加できるようにしてほしい。(60代男性)
- ・予約をする等も手間がかかるので、気軽に参加できる生涯学習があると行きやすいと思う。例えば大学の講堂とかで予約不要とか。(40代女性)
- ・浜松市は大学や専門学校の数が少ないためか、社会人の為の生涯学習に関する講座がほぼ無いと思う。夜などに開いてほしい。(60代女性)
- ・身近に習えるとよい。(60代男性)
- ・親が生涯学習を勉強して、子供たちとレクリエーションやイベントをするのはどうか。そうすれば親と子供世代で一緒に勉強できて良いと思う。(10代男性)
- ・興味のある講座があれば、また受講したいと思う。(50代女性)
- ・地元の産業や歴史的な場をめぐる機会があれば参加したい人もいるし、地元への理解も深まる。こうした機会を定期的に設けることで地域の交流の場ができ、文化、環境、防災などの地域活動、社会活動も容易になると思う。(70代男性)
- ・受講者のレベル分けと、そのレベルに合わせた内容と指導者の選定。(初級から上級者を一緒の内容で学習するのでは意味がない)(70代男性)

7 オンラインでの講座開催など

- ・これから重要になるのは通信(インターネット)だと思う。生活を豊かにするにはそのための知識が必要だ。今ではスマホで何でもできるが、シニアの方はなかなかできないと諦めている。この人たちを取り残さないようにすることはとても重要。インターネットで学習できるものがあれば時間とガソリン代が浮く。自分の知識も増える。忙しいなか、効率的に物事を行えるようにすべきと思う。(50代女性)
- ・天竜区には空きビルなど何かできそうなスペースがある。是非役に立つ教室を開いてほしい。(PC教室やプログラミング、インターネットなどを希望)(40代男性)
- ・インターネット上の様々なコンテンツを活用している。(60代男性)
- ・インターネット講座の普及など、参加しやすい場が増えると良い。(30代女性)
- ・すき間時間で参加出来るリモート学習が充実したらいいと思う。(50代男性)
- ・配信で学習できれば、夜に短時間でも見られたらいいと思う。(40代女性)

8 これまでの経験から

- ・以前、生涯学習インストラクターの資格を取り、登録して参加してみた。交通費や経費がかかるのに完全なボランティアで、これを手間暇かけてやる意味があるのかと疑問に感じた。また、リタイア年代の人が指導者で、考え方も異なり、自分がやりたい内容とは相反するものだった為、途中で辞めた。(50代男性)
- ・地域のボランティア活動に数年参加した時の事。最初は意欲もあったのだが、やめようと思ったとき自由にやめられず(後任が決まるまでは継続)、非常に苦痛で、それ以来地域のボランティアには参加したくなかった。(70代男性)
- ・職場の身近な人の影響がとても大きい。自分自身の充実、啓発や生活の向上を目的に頑張る事が出来た。若い人とは違い、覚えたり理解したりするには少し時間を要したが、取得できた時の達成感を忘れる事はないと思う。(50代女性)
- ・60, 70代の人で、働いている人が多く、会に入っても退会するケースが多く、世話人が固定化してしまう。(70代女性)
- ・講師の方が、80代でも頑張ってくれてくださるのは嬉しいが、体調を崩したりすると、次にやってくれる方を探すのが大変である。(70代女性)
- ・高齢の父に筋力保持、出かける、仲間を作るという目的で老人運動教室を探し、開催公民館を見つけたが、バスの乗り換えが多く送迎が必要で、慣れる前に終わってしまった。地元の公民館で毎週やってくれたら、と思った。(60代女性)
- ・父が70才の時、シルバー人材に登録に行った。体はまだ動くし、左官作業や木工作业、草刈りも十分できたが、受付の方に、活動の機会は少ないとの説明を受け帰って来た。理由は若い老人たちがいるからで、意欲や技術があっても高齢になると活動の機会がなくなる。近い場所で楽しめる機会を作っていただけないかと思う。(60代女性)
- ・協働センターの学習に、1回/月で参加している。小学校・高齢施設への訪問は10回/年ぐらいだが、訪問が平日の為、体調が不安でも休めない状態。活動メンバーも仕事を持っている人が多く、参加できない。学び直しとして英語をやりたいと思い、ラジオを聞いているが、なかなか上達しない。(70代男性)
- ・退職した折、自治会活動に駆りだされて3年。役員としてあと3年は離れる事ができない。仕事上(約50年)得た知識も旧来のしきたりにしばられ生かす事ができない。つくづく後悔している。(60代男性)
- ・趣味で始めた洋蘭が今ではメインの活動になり、世界一の花を作り出した。浜松は人員が少ないため、あまり行われていない。(60代男性)
- ・インターネットで毎日30~60分くらい中国語を勉強している。4年を過ぎて、少し中国人が話していることを理解できるようになった。(60代男性)
- ・人生の途中で割り込んで来たスマホにてこずっている高齢者が多くいる。協働センターでの講習会に参加し、そこで縁の出来た学生さんに個人レッスンをお

願いし、ようやく少しは分かるようになった。ただでさえ物覚えが悪くなる年代で、個人レッスンにした選択が正解だった。講習会アシスタントだった学生さんは、何度も同じ事を聞いても面白がって教えてくれた。まだまだ教わりたい事があり是非、継続開催を希望する。(70代女性)

- ・2年ほど前から同じ町内の同じ班にブラジルの方が引っ越してこられた。回覧板の文化が無く、何回説明しても理解してもらえず毎年班長が苦勞しており、ポルトガル語に訳して書いてみたりしている。外国人住民支援の活動を地域全体で対応していけたらと考えている。例えば、自治会長からラインとかで発信するとか。ラインだけだと高齢者は難しいので回覧板と併用で。(50代女性)
- ・50代中頃から定年後を考え自給自足を心がけてきた。無農薬野菜作り、鶏や山羊を飼う…と、300坪の農地を借り今に至っている。生涯学習には体を使うことが大切。野菜づくり、スポーツ、旅行が今の私の三つの柱だ。(80歳以上男性)
- ・後期高齢者になると学びたい気持ちはあっても、その場所までの足が無くなってしまう為、テレビ、ラジオ、通信手段の活用が便利。その気になれば十分勉強できるし、今までのテキスト等を読み直す機会にもなる。体操も毎日続けており、自分流にできるのも、今までの学習のおかげ。これからも続けていきたい。(70代女性)
- ・年齢も80才となり、興味はあるが頭がついていかず、夫と二人の年金生活で夫の地域ボランティアについて行き、話を聞いたりする程度だ。(80代以上女性)

9 活動していない/気持ちはあるができていない

- ・興味があったり学習したいと思う分野はあるが、どこかへ出向いたりお金がかかったり、時間の制約があったりするのがとにかく面倒。(40代女性)
- ・今のところ特にない。ペットと共に生活をしているので長い時間家を開けられず、外でのサークルには行けないが、毎日を楽しく過ごしている。(80代以上女性)
- ・子育てや育児の支援をお手伝いしたいけれど70才すぎて体力に自信を持ってない為、残念な気持ちだ。(70代女性)
- ・コロナ流行の3~4年で、外出が大変少なくなった。家事が大半になっている自分の暮らしぶりがとても自由で、今こうしよう、ああしようと思う気持ちが少なくなっている。健康で、今とても願うことは少ないが、社会の為、できることは協力させて頂きたい。(70代女性)
- ・高齢になり、外出の機会も少なくなり、近所の高齢者はどこも行かずに家にいる人が多い。外出するチャンスがあればと思う。(80代以上男性)
- ・まだまだ学びたい事、学び直したい事たくさんあるが、心も体も健康でなければその一步を踏み出せない気がする。私自身、足がとても弱ってきているので、まずは自分の体をしっかりケアして、万全にしていきたい。(60代女性)

- ・年もいっているし、体が不自由の為出かける事が出来ない。(70代女性)
- ・時間のなさ(忙しさ)を越す興味を持たせる内容が見当たらない。(50代男性)
- ・ここ数年体調が悪く何もやっていない。(70代女性)
- ・学ぶ気持ちに年齢はないと頑張るがやはり80路ともなると体力の限界がある。仲間との出会いがあって、今も続けている。(70代女性)
- ・様々な知識を得たり学んだりすることに誰もが興味を持っていると思う。ただ、介護や育児で時間がない場合は、時間をひねり出して最低限必要な情報を収集するという形にならざるを得ないので、今はまだちょっとという気持ちだ。(40代女性)
- ・家内の老親の介護の為、長女である家内の夫としてこの限界集落に転居した。生涯学習の理念は素晴らしいが、今の立場ではそれどころではない。(60代男性)
- ・学び直しや生涯学習を行いたい気持ちはあっても、時間、金銭、場所といった制約から参加を諦めざるを得ないことが多々ある。(30代女性)
- ・さまざまな事に興味はあるが、家庭の事情等でなかなか一步が踏み出せない。今後自分の年齢を考えると、何か行動をおこす事はすぐにはできないが、身近な所で学習ができる機会が多くなれば嬉しい。(60代女性)
- ・習字を習いたい、英語が話せるようになりたいなど色々やりたい事はあるが、なかなか踏み出せず、たまに広報はままつや協働センターから情報を見ている。講座やサークルなど利用してみたい気持ちはある。(50代女性)
- ・始めの1歩、きっかけが今までできていない。(70代男性)
- ・気持ちは前向きにと思うが、体力がついていかないのが残念。(80歳以上女性)

10 時間がない/余裕がない

- ・子育て世代は、生涯学習に取り組む余裕がない。体力や時間、経済的に余力がある世代などが環境や基盤づくりの助けができると良い。(50代女性)
- ・仕事と家事で1日が終わる日々。学習して、少しでも社会の力になりたいと思う人々は多くいると思う。(50代女性)
- ・子育てと仕事に忙しく自分の学習に当てる時間があまり無い。子供と一緒に参加出来る機会または時間に縛られないインターネットを利用したものが取り組みやすい。また、申し込み等もネットでも行えるとより気軽に良い。(60代女性)
- ・仕事と家事と子育てで自分の学習に充てる時間は全くない。気軽に子供を預けて学習時間を確保できる体制が無いと、自分のために時間は使えない。(30代女性)
- ・仕事の休みが週1日なので、なかなか参加できない。民間の講座に…と思うが時間が合わない。インターネット環境はあるがパソコンを見ると目がぼやけピントが合わず疲れてしまう。仕事を引退したら近くの協働センターなどで開催されている生涯学習の講座に参加したいといつも思っている。(60代女性)
- ・子育てや親の介護と日々の生活に忙しく、自分の時間や生涯学習について考える余

裕がない。無料で私の生活に合ったものがあれば勉強してみたい。(50代女性)

- ・フルタイム+子育て中で、なかなか自分の時間は取れない。仕事上の研修等は受けているが、あくまで仕事の一環。これも生涯学習なの？という感じ。(40代女性)
- ・自分の興味のある事など活動したくても、母の介護、孫の世話で忙しくて何もできない。(60代女性)
- ・仕事、孫の世話で毎日あっというまに過ぎてしまい、何もできないのが現状です。体が2、3つあればいいのですが。(60代女性)
- ・仕事との両立が難しい。休日の取り方、働き方等に問題がある。(50代男性)
- ・自分の習い事より子供の習い事を探してみていることが多い。フルで働いていると時間が本当にない。(40代女性)
- ・自宅ですき間時間に学べるのであればいいと思う。フルタイムで働いていると出向く時間がなかなかとれない。(40代女性)
- ・子育てが終わるまでは、なかなか自分の時間が作れないのが現状。もう少し余裕ができたらかしらの気持ちはある！(40代女性)
- ・72才ですがまだ仕事をしている。時間がとれない。(70代女性)
- ・仕事が短い時間なので給料が安くもっと働きたい。生涯学習をする前に、もっと仕事！(60代女性)

11 施設や会場

- ・協働センターがどこの地域でも老朽化しているが、少人数で地域の人が集うには都合が良いと思うので、老朽化の所はお金を出してほしい。(70代女性)
- ・協働センター（施設）が家から遠い。(80代以上女性)
- ・いつでも、どこでも、自由に学べるフリースペースなどがあると、充実すると思う。人それぞれ急な用事もある。空いている時間に学びたいと強く思う。(50代女性)
- ・田舎では会場までの移動が大きな課題。歩いて移動できる近所の家に集まって皆で楽しく学べると続けられると思う。(60代女性)
- ・講座の実施等も重要だが、学習するスペース、市民が自由に使える場所の確保がより重要だと考える。浜松市では図書館の閲覧スペースしかないので、学生や社会人が学べるスペースを確保する事で情報発信や講座なども行いやすく効率もよくなると考える。(40代女性)
- ・図書館の充実。現在大学の附属図書館に行っている。雑誌や新聞の最新号やバックナンバーが見られ、静かに落ち着いて学習している。(60代男性)
- ・環境の整備が必要。みんなでがやがや、が良いのかな。(60代男性)
- ・読書が好きなので図書館はよく利用している。(50代女性)
- ・生涯学習は大切で続けたいが、高齢になると遠方まで出向くのが難しい。近隣の公民館、図書館などで講習会の開催があれば参加しやすいのでは。(70代男性)

- ・地域の近くに生涯学習の施設があるのが一番だと思う。私の住んでいる所は田舎なので、そうした場所に人は中々集まらない。(50代女性)

12 その他

- ・人から直接教えてもらう方が身につくと思うが、恥ずかしい、時間がない、めんどくさくなりそう、人が沢山いるところが怖い等の理由で辛いなと思った。(私が身につくのは人対人なのに、人が数人いるだけでも辛くなるので)(20代女性)
- ・生涯学習が重要なことは分かっているが、先行き不透明な中、何に手をつければ良いのか分からない。(20代女性)
- ・引っ越しをしてあまり時間が経っていないので地域のことが詳しく分からず参加できずにいることが多い。(20代女性)
- ・どんな学習でも続ける為には他者との関わり、仲間が存在が必要だ。(50代男性)
- ・年齢を重ねた事で、体力気力が衰え、学習意欲も減少し、寂しい。(80以上男性)
- ・誰かを誘うのが苦手。一人でいる方が好きなので、集まって生涯学習をやるのはいいけれど、一人からでも気軽に行ける生涯学習があるとよい。(20代女性)
- ・あまり若い人が多く集まっているイメージがないので、年齢関係なく楽しくできそうな生涯学習に行きたい。(年配の方々に何かと迷惑かけてしまうのではと心配)あとは、その中で自分が楽しめるのかも心配だ。(20代女性)
- ・年金生活者。今は自分で運転もでき、どこにでも行くことができるが、これからどんどん年老いていくことを思うと、手軽に自分で行けるところなど、参加のハードルが低いところなら、と思っている。(60代女性)
- ・名前先行になっていないか？多すぎる情報よりもその人の体験の中身が重要。直接人と人の関係作りを。(70代男性)
- ・知識が豊富で時間があり金銭的に余裕がある人が周りにたくさんいる。何かしら役立てられたら良いのにと考えて見ている。(70代女性)
- ・天平琴と合唱のサークルで活動中。グランドゴルフもやってみたい。(70代女性)
- ・来年は80代。地域の生涯学習で心身共に健やかな老年を過ごしたいと思う。楽しく仲間と交流し、可能ならば何か人の役に立つことができたなら幸せ。(70代女性)
- ・高齢者夫妻に現在の経済状況は厳しい。生涯学習に心ときめくが、現実にはパンフレットを見る程度。年に一回でも好きな講座に出られたらと思う。(70代女性)
- ・これから、どんな活動ができるのか、わくわくしている。67歳でもうあまりできることはないかなと思っていたが、生涯学習に元気をもらった。(60代女性)
- ・定年までは会社から学習の機会を与えられる。定年やその前から始められる生涯学習があればとても良い。会社のなかでは会社のこと以外の学習が難しい。会社から離れて学習したり、それに代わる活動ができる環境があるとよい。(40代男性)
- ・生涯学習に余り意識することなく色々とよくわかった。(70代女性)

- ・協働センター等いつも楽しく学び暮らしも潤っている。(70代女性)
- ・保育園、幼稚園に入る際、「家から近い」なども優先順位に入れて欲しい。社会復帰した際に仕事選択の幅を広げられることにもつながると思う。(20代男性)
- ・保育園に通う際「保育時間標準」になれる条件が厳しい。もう少しハードルを下げてもらえれば、子育てと仕事の両立がしやすくなると思う。そうすることで、子供を持つ人が増えたり、持とうとするきっかけにもなると思う。(20代男性)
- ・他市のイベントに参加した経験がある。浜松市も活性化（地域振興や街おこし）が伴うようイベントを充実して欲しい。(50代女性)
- ・コロナ以来、家で過ごすことが多く、いつの間にか外出する事や人と接する事にわずらわしさを感じてしまうようになってしまった。これではいけないと思いつつ過ごしている。気軽に参加できる機会があったらと思い始めている。(70代女性)
- ・現在、SDGsに貢献するシステムを設計しているが、他人には内容を伝えたくない。
(80代以上男性)
- ・趣味を広げたいと思っているが費用がかかるためできない。いろいろやりたいとは思っているが、大勢の人とかかわるのが苦手なので考えてしまう。(50代女性)
- ・生涯学習はお金に余裕がある人々ができる時間つぶしのように感じている。子育て世代は「時間」の問題もあるが、やりたくても「お金」がなくて断念する人が身の周に多い。そこで資金援助などがあれば「お金」が理由で今まで見向きもしなかった人々がまずは「興味を持つ」という段階に行くのではないかと思う。(30代男性)
- ・お金をかけずにできるものが増えて欲しい。気になっても、金銭的余裕がないのでできない。(30代女性)
- ・自治会という言葉が所々で出てきたが、アパートにすんでいる場合、情報がないどころか、除け者あつかいされる。地域に役に立ちたいと思っても、地元住人の気持ちが変わらない限り難しいと思う。(30代女性)
- ・生涯学習とはやれと言われてやるものでもないと思う。ただ、やりたいと思う時にできる協力はあった方がよい。例えば軽トラや溶接機や大型工具等、普通の家にはないけれど必要な時に借りられるような仕組みがあれば嬉しい。(50代男性)
- ・経済的問題も含め生活にゆとりがないと意欲がわいてこないと思う。(50代男性)
- ・日々の生活の中で興味を持った事柄や知りたいこと、得たい知識などは、インターネットを通じて調べたり学んだりすることができる。外部の講座や教室に参加してまで、学習活動をしようとはなかなか思わないのが現状。(40代女性)
- ・学習したことに対してその人に何かしらの行動を期待しないで欲しい。(50代男性)
- ・はじめの一步を踏み出すには勇気がいる。地域や人とのつながり、コミュニケーションを取る事も一つの活動だと思っている。(70代女性)
- ・高齢になると家に引きこもりがちになり、孤独になる。それがアルツハイマーや認知症につながると思う。出かけて勉強する機会があれば、まだまだ市の為になるこ

- と、若い人に何かを教えることも出来る。最近、浜松市は子供や外国人には目が向くが、年寄りには冷たいように感じる。(80 代以上女性)
- ・私が小さな頃には当たり前のようにいた動物、虫などがいなくなっている。全て人間様優先で新しい工場、ビルが建つたびそこに住んでいたものは追い出されるか死んでしまう。そんな野生のものたちを守りたい。(60 代女性)
 - ・障害があって働けず年金に頼って生活している。日々の生活で一杯いっぱい。時間的・経済的なゆとりがないと生涯学習活動に取り組むのは難しい。(60 代男性)
 - ・電動自転車でお医者さんに通っている。趣味の卓球には弟夫婦が月 1 回位アリーナへ連れて行ってくれる。もっと近くで卓球もその他の趣味もしたい。町内の公民館などで年を取っても活動したい。引きこもりになりがちな年寄りに、楽しみと健脚になるべく運動のチャンスを与えて欲しいと願っている。(80 代以上女性)
 - ・浜松市は昔から車が多く、公共交通機関が他都市に比べ料金も高く便も悪い。私は未だ運転免許を保持しており、諸活動も脚の点で助かっている。(80 代以上女性)
 - ・地域活動、生涯学習と言葉でまとめられるものではない。山地、農地、都市近郊、海岸部など居住区域は多岐である。細かな地域性も求められ、その一方行政単位としての大きな指標も求められる。良く吟味していただきたい。(60 代男性)
 - ・問 5 の回答⑤にあった地域団体や PTA・・・というのは、また個人の負担が増えるのではないか。(50 代女性)
 - ・生涯学習は労力と金がかかるだけと思う。小児からの学校教育を変えて 100～200 年先を目指して下さい。大人になってからでは遅すぎる。(80 代以上男性)

IV. 今回の調査から

1 学習活動への参加について

今回の調査において、過半である 52.4%が「この 1 年くらいの間に生涯学習活動を行っている」と回答している。一方、「行っていない」とする回答は 47.6%であり、令和 4 年の内閣府「生涯学習に関する世論調査」の「学習していない」との回答 24.3%と比較するとおよそ 2 倍となっている。（他政令市の生涯学習に関する調査では「学習していない」とする回答が概ね 20～60%と報告されている）

今回の調査で、「生涯学習の定義」や「生涯学習の意義や目的」に関するご意見をいただいております、日常的に行っていることが生涯学習活動として認識されているかどうか、ということが、回答結果の背景にあると思われる。

学習や活動を行うきっかけとしては「自ら興味を持ったから」が 65%を占めており、学習活動への参加に対する積極的な気持ちが表れているものと感じる。

また、生涯学習を行う際、支障となることとして、「時間的な余裕のなさ」や「きっかけがつかめないこと」などが挙げられている。仕事や子育て、介護などのなかで学習活動を始められないでいる意見も多数寄せられた。

一方で、託児や事業開催の工夫、オンラインの活用などで参加の可能性が高まるのではないかと、といった見解や提案もいただいた。

「特に行う必要を感じない」とする回答は 9%であった。学習活動に対する興味や気持ちを持ちつつ、余裕のなさもあり、きっかけがつかめないでいる様子もうかがわれる。

2 学習内容について

学習の内容として、自身や家族の健康に対する志向が強く示されている。学習の理由や目的についても「心身の健康の維持向上」が最も多く、「余暇を有意義に過ごすため」や「知識技術の取得」を上回っている。また、今回の調査の回答者は、50 代以上が 67.5%となっていることから、その年代層の志向が反映されていると思われるが、10 代 20 代においても、行った生涯学習として「健康や医療、介護」が多く回答されており、スポーツやレクリエーション活動も含めて、健康の維持向上に対する意識が高い。

今後、学んでみたい分野として、「音楽、美術、文学など趣味や教養に関すること」「健康や医療、介護に関すること」「運動やスポーツレクリエーションに関すること」が上位を占めているが、「インターネットやスマートフォンなど情報社会への対応に関すること」がそれらに次いでおり、20 代から 70 代まで根強い学習ニーズがある。行政をはじめ様々な手続きや幅広い情報の収集・交換をインターネットやスマートフォンで行うことを求められる社会に移行しつつあるなかで、生涯学習においても、いわゆるデジタル・デバイスを解消するための方策が求められているように思われる。

「日常生活の中で特に関心のある社会課題について」は、「年金や老後の健康」と「自分や家族の健康」が上位を占め、「防災対策」がこれに続いており、それぞれ全世代的に社会課題として認識されている。この設問は3つまでの複数回答可であったが、延べ 1,527 人の回答があり、全設問中最多であった。それはまた、「心身の健康の維持向上」を志向することの背景となり、回答者の意識が、より身近で直接、生活につながっていることに関心を示しているように思われる。

3 情報提供について

生涯学習に関する情報をどこで得ているか、との設問に対して「インターネットの情報サイト」と「広報はままつや協働センターなど公的施設のちらしから」との回答が上位を占めた。

それらに次いで「SNS」と「新聞、ミニコミや折り込み広告など」が並んでいる。

年代別では、インターネット情報は年代の広がりが見られるものの、70 代以上では少なく、高齢年代を中心に、広報はままつやチラシなど紙媒体から、多くの情報を得ている様子が窺える。SNS については若い世代の活用が特に顕著で、60 代以降の利用は極めて少ない。情報の取得先については年代による差異が顕著であり、現状の情報提供活動の充実とともに、若い年代の多くがインターネットや SNS から生涯学習に関する情報を得ていることから、そのような媒体による情報発信も求められる。

また、生涯学習について、「本アンケートで初めて生涯学習を意識した」「生涯学習をもっと宣伝して欲しい」「もっと発信を」「市が生涯学習を推進していることを初めて知った」「求める方に情報が届きやすくなっていると良い」など、世代を問わず多数の意見が寄せられた。

さらに、生涯学習機会の拡大や学び直しの支援、地域活動への参加促進などのために必要なこととして、いずれにおいても情報提供が最上位となっており、生涯学習情報の積極的な発信が強く求められている。

4 学びやすさについて

生涯学習を行いやすい場所としては、「協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室」が 23%で最多であったが、60 代以上の回答が多く、特に女性の高齢層に支持されている。これは、学習している場所として、「公的な機関での講座や教室」とする女性の回答が 22%と男性の回答 11%の 2 倍となっていることと重なる。「オンラインの講座や教室」が、15%でこれに次いでおり、50 代以下の回答が多数を占めている。

こうしたことから、学びやすい場所や形態については 40～50 代を境に異なる傾向がみられ、上記の情報取得の傾向と同じものがあるように思われる。

また、学びにくさの要因として、身近にそのような場所がないことや移動の難しさ

を指摘する意見も寄せられた。一方で、オンラインの講座や教室の活用などの提案もいただいております、アクセスのしやすさに向けた課題への取り組みが求められる。

学びやすさとして、託児付き教室の開催や無理のない参加条件や時間帯の設定、1回だけのワークショップなど、参加のきっかけとなるような取り組みを望む意見もあった。

5 活動を通して得たものと生かし方について

生涯学習活動を通して得たものとして「新たな知識や技術の学び」「心身の健康状態の維持向上」「友人や仲間（人間関係の広がり）」がそれぞれ 20%を超え、上位を占めた。また、それをどのように生かしていくか、との設問に対しては「健康の維持・増進」「日々の生活の様々な場面」「自己の充足感や意識の向上」がそれぞれ 20%を超え、上位を占めている。

興味や関心のあることを学ぶことで、自分自身を高め、学習を通して友人や仲間とつながり、学んだことを生かすことで新たな学びや活動が生まれていく過程は、生涯学習の本旨そのものといえる。引き続き、市民の前向きな学習意欲に応える生涯学習活動の推進が求められる。

一方で、生涯学習活動を通じて得たものとして「地域とのつながり」を挙げる人は 8%、学んだことをどのように生かしていくか、との設問に対して「自治会等の地域活動」5%「ボランティア活動」4%となっている。

今後、さまざまな事業を通して、学習自体を深めるとともに、地域や人とのつながりの拡大など市民交流の新たな展開を期待したい。

6 まとめ

今回の調査における特徴的な事象として以下の 4 点を挙げておきたい。

(1) 高齢者層の多様化

60 代以上の年代を高齢者として一括りできないこと。超高齢化社会を迎えるなかで、そのような年代の方を含めた活躍の機会創出が期待される。

(2) 情報取得媒体の 2 分化

40～50 代を境に情報取得媒体がインターネットや SNS、と紙媒体に分かれる傾向。Web 系の情報媒体の学習機会や情報格差解消の方策が求められる。

(3) 自身や家族の健康に対する関心の高さ

高齢化する社会を背景に、自身や家族の健康の維持向上に対する関心が高い。健康に関する多様な学習ニーズに応えていくことが期待される。

(4) 生涯学習活動に対する評価

よりよく生きるために生涯学習は必要、とする肯定的意見が多く寄せられた。一方で、市の生涯学習事業の認知度の向上が課題となっている。

【資料】調査票



**生涯学習に関する意識活動実態調査
へのご協力をお願い**



■生涯学習に関する意識活動実態調査

※□内に番号をご記入ください

問1 あなたの性別、年齢、居住地、職業、家族構成をお答えください。

1-1 性別 ①男性 ②女性 ③その他

1-1回答

1-2 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代

1-2回答

⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

1-3 居住地 ①中央区 ②浜名区 ③天竜区

1-3回答

1-4 職業 ①自営業・自由業 ②勤め人(フルタイム)

1-4回答

③勤め人(パート・アルバイト)④家事専業

⑦その他を選択された方のみご記入ください

⑤学生 ⑥無職 ⑦その他

1-5 家族構成 ①単身(一人暮らし) ②夫婦・カップル ③二世帯世帯(親子など)

1-5回答

④三世帯世帯(親、子、孫など) ⑤その他

⑤その他を選択された方のみご記入ください

問2 この1年くらいの間で、どのような生涯学習を行いましたか(3つ以内)

<学習やスポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味の活動など>

①音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養に関すること

問2回答 (3つ以内)

②運動やスポーツ、レクリエーションに関すること

③健康や医療、介護に関すること

④料理や服飾、インテリアなど家庭生活に関すること

⑤インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応に関すること

⑥外国語や国際交流、国際理解に関すること

⑦子育てや家庭教育などに関すること

⑧環境や防災、人権など社会問題に関すること

⑨経理や法律など仕事に必要な知識・技術や資格取得に関すること

⑩ボランティア活動や地域づくりに関すること

⑪その他

⑫特に行っていない(→問3へ進んでください)

2-1 その学習や活動を行うきっかけは何でしたか。

- ①自ら興味を持ったから
- ②友人や知人に誘われたから
- ③職場や学校などからの紹介や案内
- ④時間的に余裕ができたから
- ⑤特に理由は無い（なんとなく）
- ⑥その他

2-1回答

2-2 どのような場所で学習しましたか（3つ以内で）

- ①協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室
- ②カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催された講座や教室
- ③学校（小・中学校、高校、大学など）で開催された公開講座や教室
- ④職場の研修等
- ⑤地域団体やPTA、NPOなどが行う学習や活動
- ⑥自主的に行う同好会やサークル活動
- ⑦図書館、美術館、博物館などで行う個人での活動
- ⑧テレビやラジオ
- ⑨ YouTubeやリモートなどオンラインの講座や教室
- ⑩その他

2-2回答（3つ以内）

2-3 どのような理由や目的で学習をしましたか（3つ以内で）

- ①余暇を有意義に過ごすため
- ②教養を高めるため
- ③仕事に必要な知識や技術取得のため
- ④家庭生活や日常生活に生かすため
- ⑤心身の健康の維持向上のため
- ⑥仲間づくりや人的な交流の促進のため
- ⑦興味のある分野に関する知識技術向上のため
- ⑧地域活動や社会活動に生かすため
- ⑨社会問題の理解と解決のため
- ⑩その他

2-3回答（3つ以内）

2-4 生涯学習活動を通じて得たものはどのようなものですか（3つ以内で）

- ①新たな知識や技術の学び（取得）
- ②友人や仲間（人間関係の広がり）
- ③地域とのつながり
- ④心身の健康状態の維持向上
- ⑤仕事の充実や新たな就業の機会
- ⑥趣味の活動分野の拡大
- ⑦学ぶ意欲の充実
- ⑧その他
- ⑨分からない

2-4回答 (3つ以内)

2-5 生涯学習活動で得たことをどのように生かしていますか（3つ以内で）

- ①日常生活の様々な場面
- ②ボランティア活動
- ③仕事や職務遂行、就職活動
- ④自治会等の地域活動
- ⑤社会の課題などへの取り組み
- ⑥健康の維持・増進
- ⑦仲間づくり ⑧自己の充足感や意識の向上
- ⑨生涯学習活動などでの講師やインストラクターの活動
- ⑩その他

2-5回答 (3つ以内)

2-6 生涯学習に関する情報をどこで得ていますか（3つ以内で）

- ①広報はままつや協働センターなど公的施設のちらしから
- ②新聞、ミニコミや折り込み広告など
- ③大学などの公開講座等の案内
- ④インターネットの情報サイト
- ⑤自治会の回覧
- ⑥SNS ⑦ポスターやチラシ
- ⑧ラジオやテレビ ⑨その他

2-6回答 (3つ以内)

問3 生涯学習を行う際、どのようなことが支障になりますか（3つ以内で）

- ①時間的な余裕がない
- ②生涯学習を行う機会や適当な場所がない
- ③興味のある分野や内容が見つからない
- ④経費が高額
- ⑤一緒に参加してくれる人がいない
- ⑥気持ちはあるがきっかけがつかめない
- ⑦特に行う必要を感じない
- ⑧その他

問3回答 (3つ以内)

問4 今後、学んでみたい生涯学習の分野（3つ以内で）

- ①少子高齢化、SDGs、防災など社会問題に関すること
- ②音楽、美術、歴史、文学など趣味や教養に関すること
- ③運動やスポーツ、レクリエーションに関すること
- ④健康や医療、介護に関すること
- ⑤料理や服飾、インテリアなど家庭生活に関すること
- ⑥インターネットやスマートフォンなど情報化社会への対応に関すること
- ⑦外国語や国際交流、国際理解に関すること
- ⑧子育てや家庭教育などに関すること
- ⑨環境や防災、人権など社会問題に関すること
- ⑩経理や法律など仕事に役立つ知識・技術に関すること
- ⑪ボランティア活動や地域づくりに関すること
- ⑫その他
- ⑬特に学習したいとは思わない

問4回答 (3つ以内)

問5 どのような場所や形態が生涯学習を行いやすいですか（3つ以内）

- ①協働センターやふれあいセンターなど公的な機関での講座や教室
- ②カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間で開催される講座や教室
- ③学校（小・中学校、高校、大学等）で開催される公開講座や教室
- ④職場の研修等
- ⑤地域団体やPTA、NPOなどが行う学習や活動
- ⑥自主的に行う同好会やサークル活動
- ⑦図書館、美術館、博物館などで行う個人での活動
- ⑧テレビやラジオの講座や教室
- ⑨YouTubeやリモートなどオンラインの講座や教室
- ⑩書籍や雑誌など
- ⑪その他

問5回答（3つ以内）

問6 日常生活のなかで特に関心のある社会課題は何ですか（3つ以内）

- ①防災対策
- ②自分や家族の健康
- ③年金や老後の生活
- ④環境問題
- ⑤人口減少
- ⑥少子高齢化
- ⑦地域の国際化や多文化共生
- ⑧地域の歴史・文化・自然
- ⑨高度情報化社会への対応
- ⑩まちづくり、地域づくり
- ⑪子育てや家庭教育
- ⑫その他

問6回答（3つ以内）

問7 生涯学習に関する情報を得やすい媒体は何ですか（3つ以内で）

①広報はままつや協働センターなど公的な施設からの案内

②新聞やミニコミ紙など

③インターネットの情報

④SNS

⑤回覧板

⑥テレビやラジオ

⑦民間のカルチャーセンターや文化教室のチラシや案内

⑧大学や専門学校等からの案内

⑨家族、知人、友人等からの口コミ

⑩その他

問7回答（3つ以内で）

問8 どのような形態のオンライン学習（インターネットを活用した学習）を行ったことがありますか

①Zoom等の双方向型（リアルタイム）学習

②YouTube等のオンデマンド型学習

③その他

④行ったことはない

問8回答

問9 オンライン学習に対する希望

①希望する

②希望するができない

③希望しない

問9回答

--

9-1 「②希望するができない」とお答えいただいた方のみ、その理由をお聞かせください。

- ①パソコン等の機器を持っていない
- ②パソコン等の使い方がわからない
- ③Wi-Fi等の通信環境が整っていない
- ④通信等の経費がかかる、高額である
- ⑤その他

9-1回答

9-2 「③希望しない」とお答えいただいた方のみ、その理由をお聞かせください。

- ①パソコン等の機器の使い方がわからない
- ②Wi-Fi等の通信環境を整備していない
- ③オンライン学習の準備が面倒
- ④経費がかかる、高額となるのが心配
- ⑤ネット上のトラブル（個人情報の取扱い等）が不安
- ⑥直接会って学習しコミュニケーションを深めたい
- ⑦特に必要を感じない
- ⑧その他

9-2回答

**問10 学び直しについて伺います。どのような分野でのスキルアップや
リスキングに興味がありますか。（3つ以内で）**

- ①デジタル技術や情報通信技術に関すること
- ②外国語に関すること
- ③健康やスポーツに関すること
- ④医療や福祉に関すること
- ⑤経営やビジネスに関すること
- ⑥法律や経済、国際関係に関すること
- ⑦音楽、絵画など芸術に関すること
- ⑧料理や家庭菜園、DIYなどに関すること
- ⑨その他

問10回答（3つ以内）

問11 学び直しを支援するために最も効果的と思われることを選択ください。

①学び直しに関する学習情報の提供

問11回答

②資格取得や専門的な知識・技術を学習する講座等を増やす

③大学や専門学校などが実施する講座の充実

④短期で学べるプログラムの設定

⑤テレビやラジオ、インターネットで受講できるプログラムの充実

⑥その他

問12 生涯学習の機会を拡大するために市が最も力を入れるべきことは何ですか。

①市民ニーズの高い学習プログラムの提供

問12回答

②仕事に必要な知識・技術の習得や資格取得を目指す講座の充実

③インターネットによるオンライン学習の充実

④協働センター、ふれあいセンター、図書館等の学習情報の積極的提供

⑤生涯学習ボランティアなど学習を支援する体制や拠点となる場の充実

⑥活動の成果が適切に評価される仕組み作り

⑦その他

問13 今後、地域社会においてどのような活動に参加してみたいと思いますか。

①地域と学校が協働して行う活動

問13回答

②レクリエーションや自然体験など地域の子どもたちのための活動

③子育てや育児の支援活動

④地元の観光や産業の活性化に資する活動

⑤伝統行事や歴史の継承に関する活動

⑥スポーツや文化活動

⑦福祉関係の支援活動

⑧国際交流や外国人住民支援に関する活動

⑨地域の環境保全に関する活動

⑩防災に関する活動

⑪その他

⑫地域活動、社会活動に参加したいとは思わない

問14 上記の地域活動に参加しやすくするために最も必要なことは何ですか。

①地域や社会での活動に関する情報提供の拡充

問14回答

②地域活動に関する講習会や研修会の開催

③コーディネーターの配置など地域活動を支える体制の整備

④活動の拠点となる施設等の確保や利便性の向上

⑤その他

■生涯学習に関する自由意見をご記入ください

ご協力誠にありがとうございました。

浜松市生涯学習に関する意識活動実態調査報告書

2024 年 12 月

【発行】 〒430-8652 浜松市中央区元城町 103-2
浜松市市民部創造都市・文化振興課
電話 053-457-2413
ホームページ
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
メールアドレス
shogaigk@city.hamamatsu.shizuoka.jp
